

近況便り

はじめに

今年前半を振り返ると、生成 AI の進展や宇宙開発の加速などの技術革新が進む一方で、気候変動や国際情勢の不安定さにより、持続可能な社会のあり方が改めて問われるようになりました。また 10 年前に大地震の被害にあった熊本で再び大地震がありました。犠牲者へのご冥福と被災地の一日も早い復興を願わずにはいられません。

こうした世界と日本の現実、皆さんが学ぶ分野の価値をより一層高めています。工学、環境科学、医療、情報科学など、どの学問も「複合危機の時代を生き抜くための知恵」として欠かせません。不確実性が高まる今こそ、事実を知り、考え、対話し、未来を形づくる力を育むことが求められています。

さて、2026 年度、当基金は 5 月の選考委員会において新規 20 名、継続 40 名の合計 60 名（内外国人留学生 3 名）の採用を決定しました。6 月には、奨学金支給決定書交付会を開催し、全国各地から 23 名参加いただきました。また、9 月には、工場見学会を実施し、14 名参加いただきました。

今回の近況報告は 7 月初旬から 8 月初旬にかけて定期試験の時期にもかかわらず、60 名全員から提出いただきました。少しでも他の奨学生の近況を知り、相互理解の役に立てればと思います。忙しい勉強や研究の合間に、ご覧ください。また、昨年度で当基金の奨学生を終了した皆様からのメッセージを最後に載せていますので、お読みください。



東京大学大学院
工学系研究科
航空宇宙工学専攻修士 2 年

いつも温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。今年度も引き続き奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。現在の私の近況についてご報告させていただきます。研究活動としては、CFRTP（熱可塑性炭素繊維強化プラスチック）の 3D プリンティングに関する研究に取り組んでおります。CFRTP は軽量かつ高強度でリサイクル性にも優れており、次世代の製造技術として注目されています。しかし、CFRP の 3D プリントには欠陥が多く、実用化とはほど遠い状況です。特に熱変形による反りが問題になり、航空宇宙分野や医療分野での応用に向けた課題となっています。研究活動としては、国内学会は昨年 11 月に付加製造学会、今年 3 月に JCCM、国際学会としては今年 6 月に ECCM に参加させていただきました。特に ECCM では、ノルウェーの

オスロで発表を行いました。学会後には、ノルウェーの柔術ジムで出稽古し、いい出会いがありました。また、ノルウェーのサウナでは、サウナをした後に水風呂の代わりに海に飛び込むという、一生でこれを超えるものはなかなかないくらい楽しい思い出を作ることができました。

学業の傍ら、週に数回、ブラジリアン柔術を続けており、今年 2 月に念願の紫帯に昇格することができました。さらに昨年 10 月ごろに、2 回目の骨髓提供ボランティアを行いました。

引き続き学業・研究・課外活動に励み、支援いただいていることへの感謝を忘れず精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



岐阜大学大学院
連合創薬医療情報研究科
創薬科学専攻



東京大学大学院
工学系研究科
社会基盤学専攻
修士1年

はじめに、奨学生として選出していただき誠にありがとうございます。私は、今年度から博士課程へ進学いたしました。いただいた奨学金が支えとなり、これまで以上に研究活動に力を入れることができいております。また、博士課程学生向けの講義やセミナーにも積極的に参加し、専門的なことを学ぶだけでなく、大学と企業の交流から博士人材として求められる人物像といった、人としてどうあるべきかについて考える機会も増えたように感じます。

今年の始めは考え方と同時に環境も大きく変化しました。昨年同様、私の所属する研究室に新しく学部4年生の学生が配属されたのですが、昨年とはまた一学年差が開くことで、より先輩として先導して行動せねばならないと感じ、自分から行動することが多くなったと思います。最近では、学部3年生の学生実習のアシスタントが始まり、まだおぼつかない実験手技を見ていると、沢山の伸びしろがあるなと思うと同時に自分は成長することができているだろうかという懸念も生じてきます。その際には、一度自分を振り返って、自分の現状や今後の展望を考え、言語化し頭をすっきりさせることで、想像していたよりも前向きに毎日を過ごすことができます。

私的なことになりますが、近頃、筋トレに没頭しており、この夏は大量の汗をかいている気がしており、代謝が昨年より良くなったと感じております(単に暑さのせいであるかもしれませんが💦)。ある講義で、講師の方が毎日ジムに通いトレーニングすることで考えがまとまりやすくなって、ひらめきやすくなるとおっしゃっていたのを覚えています。現段階では、まだそこに到達することはできていませんが、今後、時間を見つけてランニング等、健康的で充実した日々を送りたいと思います。

今後とも、何卒よろしくお願いいたします。

(終)

昨年度に引き続き、貴財団の奨学金は心身ともに大変支えとなっております。

今後とも、よろしくお願いいたします。

今年の4月から東京大学大学院に進学し、目まぐるしい日々を送っています。学部時代の大学の授業とは打って変わって、英語でのグループワーク中心の授業が多く、課題の量も求められる質も比ではないことに驚いています。好奇心の赴くままに授業を25単位分取ってしまったため毎日大変ですが、久しぶりに学ぶ楽しさと贅沢さを享受しています。4月は授業で愛媛県大洲市に伺いました(1枚目の写真)。1年間かけて大洲市の水害対策の提案とミュージアムの設営を行うために、地域特有の課題について深ぼる必要があり、地域の人と交流し、徹底して視察を実施しました。視察後も議論を重ね、空間提案のための模型をつくり、7月初週に控えた中間発表に向けて準備を進めています。5月はマレーシアの友人の結婚式があり、現地で式に参列しました。初めて参加する結婚式がマレーシアだったので、詳しくはわかりませんが、日本の結婚式と比べてとてもカジュアルな印象を受けました。モスク併設のホールで式が挙げられており、ご祝儀は必要なく、時間もルーズで式場のご飯だけ食べて帰る人もいらっしゃいました。写真はマレーシアの伝統武術であるSilatの演舞です(2枚目の写真)。



近年では減ってきているようですが、このような武術を結婚式で披露する文化があるそうです。6月は土木計画学研究発表会・春大会があり、名古屋の会場で卒論のポスター発表を行いました。ありがたいことに優秀ポスター発表賞をいただきました(3枚目写真)。また、6月は所属研究室のある生産技術研究所にて、オープンキャンパスが開催され、研究紹介とオープンキャンパス後の食事会の企画と運営を行いました。ベジタリアンやハラルの人にもいるなかで、全員が楽しめるメニューを考案するのは大変でしたが、とても楽しい時間となりました。7月は授業の集大成であるためテストや発表が続きますが、引き続き精進していきたいです。





慶應義塾大学大学院
理工学研究科修士 2 年

公益財団法人古河記念基金の皆様

平素より多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。私の近況につきまして、ご報告させていただきます。

まず、これまで取り組んでおりました就職活動が無事に終了し、来春からは金融システムのシステムエンジニアとして新たな一步を踏み出すこととなりました。就職活動が一段落したいま、残りの学生生活は「研究」と「ドラム」の二つに全力で注力したいと考えております。

学業におきましては、引き続きゲーム理論を用いた消費者行動モデルやポイント戦略に関する研究を進めております。これまでの研究活動の集大成として、悔いのない論文を執筆できるよう、日々考察と分析を重ねているところです。

また、学業以外の部分では、大学 4 年生の時から始めたドラムに現在最も熱中しています。今年の 11 月に開催される学園祭のステージに出演することが決まっており、それに向けて日々練習に励んでおります。ドラムは非常に奥が深い楽器ですが、これまでの練習の成果を本番のステージで存分に発揮できるよう、本番まで気を抜かず技術に磨いていく所存です。

学生生活も残り少なくなってきましたが、古河記念基金様からの温かいご支援のおかげで、このように有意義で充実した日々を送ることができております。残りの期間も、研究とドラムの両立を図りながら、一日一日を大切に過ごしてまいります。

末筆ではございますが、財団の皆様のご健勝と貴財団のますますのご発展をお祈り申し上げます。



千葉大学
工学部総合工学科
共生応用化学コース 4 年

この度は、貴財団の奨学生として採用いただき、誠にありがとうございます。ご支援をいただけることに深く感謝するとともに、学業および研究に一層精進してまいります。

本年 4 月に研究室へ配属されて以来、専門的な知識を深めるための新しい学びに触れる日々を過ごしております。当初は新しい環境に対して緊張もありましたが、先生方や先輩方が非常に優しく接してくださり、楽しく学習に励むことができています。6 月までの期間で研究テーマに関する基礎的な勉強が一段落し、現在は本格的な研究活動の開始に向けて準備を整えている段階です。進級してからの 2 ヶ月間、多くの新しい経験を積み、非常に充実した生活を送ることができております。

昨年度で引退した吹奏楽団の活動については、現在は観客として演奏会に足を運んでいます。後輩たちの成長した演奏を聴くことは、私にとって大きな楽しみの一つであり、良い刺激となっています。また、研究室での活動時間が増え、屋内で過ごすことが多くなったため、5 月からジムに通い始めました。体を動かすことは非常に良いストレス解消法となっています。心身ともに健全な状態で学業に専念できるよう、これからも習慣として継続していきたいと考えています。

これから始まる本格的な研究活動において、これまで培った基礎知識を最大限に活かし、着実に成果を出せるよう努力してまいります。貴財団からのご支援を糧に、化学の発展に貢献できる研究者・技術者を目指して、一歩ずつ成長してまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



信州大学大学院
総合理工学研究科
繊維学専攻修士 2 年

この度は、貴財団の奨学生として継続して採用いただき、誠にありがとうございます。修士 1 年時からご支援をいただき、不自由なく、学業と研究活動に専念することができました。

前年度は授業と研究活動に加え、就職活動が本格化し、これらを並行して取り組むことに苦戦する日々が続きました。春から始めた企業の情報収集から、第一志望の内々定を獲得するまでの道のりは険しかったです。常に就職活動のことが頭にありました。しかし、苦戦した就職活動は 12 月で幕を閉じ、現在に至るまで、研究活動に注力できています。振り返ると、大変であった反面、同じ境遇の仲間兼ライバル達とコミュニケーションをとることができ、刺激になっていたと思います。

研究活動では、現在 3 つの類似分野の研究テーマを掛け持ちし、必死に取り組んでいます。その中の 1 つのテーマでは、先日執筆した論文を国際誌に採用いただき、ようやく私の分野に貢献できた実感が湧きました。上手くデータを収集できなかった課題点があり、考察やリミテーションのボリューム、質を向上させる部分に注力した結果、無事採用していただいた、と考えています。今後は、残り 2 つの研究テーマに関して、早急にデータを取得し、知見の積み上げや学会発表を経て、論文を執筆する所存です。

末筆ながら、貴財団のご支援があつて、充実した生活を送ることができています。重ねてお礼申し上げます。今後とも、貴財団の奨学生として相応しい行動を示し、修了まで限られた数ヶ月間で、できる限り研究分野に貢献したく存じます。また、入社後は大学での知見を踏まえ、社会、そして人々の生活に貢献する所存です。何卒よろしく願い申し上げます。



東京大学大学院
理学系研究科
物理学専攻博士 1 年

昨年奨学生として採用され、今年度で 2 年目となります。多大なるご支援に心より感謝申し上げます。修士 1 年の頃は、生活費のためにアルバイトに追われておりましたが、昨年度はご支援のおかげで研究や勉強に集中でき、無事修士課程を修了することができました。また、昨年度は 1 か月ほどヨーロッパに研究滞在することができました。円安の影響で海外滞在の費用負担が大きい状況でしたが、現地での生活費の不安なく滞在することができたのはご支援をいただいていたからです。本当にありがとうございました。

博士 1 年になってから 3 か月経過しましたが、修士課程で研究室の教員や研究員の方からいただいたテーマの 1 つについて成果をまとめることができ、現在論文を執筆中です。修士の研究生生活を通して学んだことを踏まえ、博士課程では自ら着想したアイデアをもとに研究を進め、論文としてまとめることを目標としています。日々新しいことを考えては上手くいくかどうか試行錯誤していますが、このような営みを通じて、自ら研究のアイデアを生み出すこと自体の難しさを痛感しました。実際に計算や検討を進めると、期待した結果につながらないことも少なくありません。修士では堅実なテーマを与えていただいたので、博士課程に入って初めて研究の真の難しさを実感しました。ただ、この試行錯誤の中で自分のできることが増えていくことにやりがいを感じることができ、食欲に知識を吸収する研究者を目指したいと考えています。

特に、大学院に入ると、異なる分野で研究している人たちと関わる機会が減り、視野を広げることが容易でなくなります。古河記念基金奨学生には工場見学や交付会などの貴重な機会が設けられており、普段の研究生生活では接することの少ない分野について直接学び、他分野の学生と交流できることは大変貴重であると感じています。この機会を有効活用して成長につなげたい所存です。



東京都市大学大学院
総合理工学研究科
建築都市デザイン専攻
修士2年

現在は、修士設計に向けた検討を進めるとともに、一級建築士試験の受験に向けた学習

にも力を入れています。昨年度の設計課題では、池尻大橋を敷地とした集合住宅の設計に取り組み、「ファサードとは何か」というテーマのもと、街並みと建築の関係性や、住まい手の暮らしが外部空間へどのように表れるかについて考えながら設計を進めました。建物単体のデザインだけでなく、周辺環境とのつながりや、人々の活動を受け止める建築のあり方について試行錯誤を重ねた経験は、現在の設計に対する考え方の基盤となっています。

現在取り組んでいる修士設計では、これまでの学びをさらに発展させ、社会や地域との関係性をより深く考察しながら、自分なりの建築観を形にすることを目標としています。敷地の特性や周辺環境を丁寧に読み取り、建築が人々の暮らしや都市にどのような価値を生み出せるのかを模索しながら設計を進めています。

また、一級建築士試験に向けた学習では、計画・環境設備・法規・構造・施工の各分野を体系的に学んでいます。特に法規については、法令集を用いて根拠を確認しながら理解を深めることで、単なる知識の暗記ではなく、実務に結び付く力を養うことを意識しています。設計課題で得た経験と資格学習の内容が互いに結び付くことで、建築を多角的に捉える力が身についていると感じています。

今後も大学院での研究と資格取得の両立に努め、支えてくださる皆様への感謝の気持ちを忘れず、建築を通して社会に貢献できる技術者を目指して努力を続けてまいります。



東京理科大学
薬学部薬学科学部3年

私は薬学部薬学科(6年制)の第3学年に在籍しています。4年制の学部友人は就活やインターン、院試対策などに励んでいる中、私はまだ学部の中間地点であり、授業の忙しさはピークを迎えています。必修科目の数が格段に多く、週4日、1限に授業が入っています。期末試験の科目数が15個と今までで一番多く、とても不安ですが、やるしかないという心持で励んでおります。

また、学部の勉強以外でも、サークル活動ではiGEMという合成生物学の世界大会に向けて精力的に活動しています。11月にフランスでの大会に参加する予定で、研究を進めています。加えて、週2〜3日ほどのアルバイト、資格取得に向けての勉強と、忙しくも充実した日々を送っています。

前述の世界大会に伴い経済的な不安がありましたが、今年も奨学金をご給付いただき、負担が大幅に軽減され、誠に感謝しております。

あわただしい日々ではありますが、ご支援くださっている有り難さを胸に、体調に気を付けつつ、悔いのない成果を残し、自身の成長につなげられるよう精進してまいります。



長岡技術科学大学大学院
工学研究科
環境社会基盤工学分野
修士2年

平素より温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。学部2年生の頃からご支援いただき、今年で5年目となりました。この間、新型コロナウイルス感染症の流行や、自身の足の怪我などがあったものの、奨学金によるご支援のおかげで、経済的な不安を抱えることなく勉学や研究に専念することができました。このような恵まれた環境で学生生活を送ることができたことを、心より感謝申し上げます。

現在は大学院で、2024年能登半島地震において液状化被害が発生した地域を対象とした研究に取り組んでいます。地盤を数値モデルとして再現し、そこへ地震動

を入力することで、地震の揺れが地盤内をどのように伝播したのかを解析しています。その結果を基に、なぜ一部の地域で液状化被害が大きくなったのかを検討するとともに、将来同様の地震が発生した際に被害を軽減するためには、どのような地盤対策が有効であったのかについて考察を進めています。社会に役立つ研究成果につながられるよう、日々試行錯誤を重ねながら取り組んでいます。

また、就職活動では、高速道路会社より内定をいただきました。私は、地方創生は高速道路をはじめとする交通インフラの維持・発展なくして実現できないと考えています。今後は、高速道路事業を通じて地域の物流や人の移動を支え、地方経済の発展に貢献するとともに、日本全体の活力を高める一助となれるよう、卒業後も責任感を持って努力を続けてまいります。

これからも、皆様からいただいたご支援への感謝を忘れることなく、研究・仕事の双方に真摯に取り組み、社会に貢献できる人材となれるよう精進してまいります。



慶應義塾大学大学院
理工学研究科
総合デザイン工学専攻修士1年

この度は、古河記念基金の奨学生としてご採用いただき、誠にありがとうございます。ご支援のおかげで、学業と研究に落ち着いて取り組むことができしております。

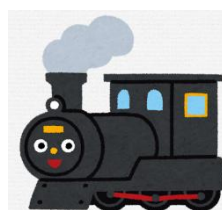
大学院に入学してから、私の生活の中心は少しずつ研究へと移ってきました。学部時代は授業や試験に向けた勉強が中心でしたが、大学院では自分で文献を読み、問題を整理し、試行錯誤しながら研究を進めることが求められます。最初は、自由度の高い研究テーマに戸惑うこともありましたが、先生や研究室の皆様のおかげで、少しずつ研究生活に慣れてきました。

現在、私は三次元感知技術に関する研究に取り組んでいます。特に、Full-WaveformLiDAR、4DRadar、そして複数のセンサを組み合わせるマルチモーダルセンサ融合に関心を持っています。LiDARは精細な三次元点群を取得できる一方で、霧やガラスによる反射などの条件下ではノイズや誤った点が生じることがあります。一方、Radarは悪天候下でも比較的安定していますが、得られる情報は比較的少なく、そのまま環境理解に用いるには

難しさがあります。そのため、異なるセンサの長所を組み合わせ、理想的ではない環境でも周囲を安定して認識できる技術を目指しています。

最近では、関連分野の論文を読みながら、点群データの処理や基礎的な実験に取り組んでいます。実際に手を動かしてみると、既存の手法を自分のデータにそのまま適用するだけではうまくいかないことも多く、センサの特性やデータ形式、評価方法などの違いが結果に大きく影響することを実感しています。何度もコードを修正したり、データを確認したりする必要がありますが、一つの問題の原因が分かった時には大きな達成感があります。

生活面では、日本での大学院生活にも少しずつ慣れてきました。日本語で自分の考えを伝えることにはまだ難しさもありますが、それも自分を成長させる大切な機会だと感じています。今後も一つ一つの課題に誠実に向き合い、将来は安全で信頼できる知能システムの実現に貢献できるよう、努力してまいります。



金沢工業大学大学院
工学研究科
機械工学専攻修士1年

今年度も引き続き、奨学生として採用していただき誠にありがとうございます。

本年度より大学院に入学し、研究活動が本格化してまいりました。学部の時と同じ研究内容ですが、より専門性が増しており、日々研究に明け暮れております。研究内容は蒸気発生装置の開発で、その第一段階として蒸気量の制御をするための実験を行っています。仮説を立て、その仮説に基づいて検証、うまくいかなければ教授とディスカッションを交わしてその理由を考察し、次の実験につなげるという一連の流れが定着しつつあり、研究への意欲も日々高まりつつあります。本研究により、いま世界が抱えるエネルギー不足を解決するための一助となることを目標に、研究を続けています。

また、研究室内で先輩という立場となり、薬品や備品の管理者、安全管理責任者に選ばれるなど、様々な役割を担うようになりました。自分を取り巻く環境が目まぐるしく変化し、最近ようやく慣れてきましたが、研究成果をはじめ、授業の履修、学会発表に向けた資料作りなどやるべきことは山積みです。大変ではありますが、これらを

乗り越えた先に自身のさらなる成長があると思うと、それをモチベーションに活動を続けることができています。

以上、簡単ではございますが、近況報告とさせていただきます。



明治大学
理工学部
電気電子生命学科学部4年

いつも格別のご支援、誠にありがとうございます。

学部4年生となって研究室の活動も本格化し、充実した日々を送っております。5月に研究のテーマを「フィジカル AI を用いた自動運転」に決め、現在は関連論文の調査を行いながら実装上の課題の探索をメインに行っています。AI・機械学習に関しては学部の研究の専門外であり、また今年から始まった研究であるため参考となる先輩の卒論等もないため、常に自分で新しい知識を取り入れる必要ことに大変さを感じています。一方で、フィジカル AI という最先端の技術について学び、活用することを目指す過程には大きなやりがいも感じています。今後は文献調査を通してフィジカル AI や自動運転の課題点を洗い出して具体的な研究内容を絞り、より踏み込んだ問題解決に取り組んでいきたいと考えています。

先日大学院入試の合格発表もあり、同じ研究室で継続して研究することができる運びとなりました。研究の土台となる思考力や課題解決能力を、学部生である今から伸ばし、修士課程での研究につなげていきたいと考えています。



東京農工大学大学院
先進学際科学府
先進学際科学専攻
食料・環境科学コース学修士2年

古河記念基金の皆様、ならびにご支援をいただいている皆様。今年度より新たに奨学生として採用いただきました、東京農工大学大学院の佐野佳祐と申します。日頃からの多大なるご支援に、心より深く感謝申し上げます。

現在、私は大学院で土壌における PFAS(有機フッ素化合物)の吸着メカニズムの解明に取り組んでいます。東京都多摩地域では PFAS による地下水への影響が大きな課題となっていますが、私はこの地域で学び、暮らす地元民の一人として、強い当事者意識をもってこの環境問題に向き合っています。複雑なデータ解析や地道な実験の連続ですが、地域の課題解決、ひいては社会全体の安全な環境づくりに貢献できる重要な研究であると信じ、日々励んでおります。

また、学業と並行して、学部生の頃から5年以上にわたり塾講師のアルバイトを継続しています。一人ひとりの生徒と長期間向き合い、それぞれの課題に合わせて分かりやすく伝える工夫を重ねてきた経験を通じて、信頼関係の構築と継続することの大切さを学びました。

この1年は就職活動にも全力で取り組みました。研究で培った緻密な分析力や課題解決への強い意識と、塾講師で磨いた傾聴力などを評価いただき、来春からはエネルギー・インフラ企業の技術開発職として働くご縁をいただきました。今の基礎研究がメインの環境から、新たなフィールドに挑戦できることを、今から心待ちにしています。

皆様のご支援のおかげで、経済的な不安を抱えることなく、研究や自己研鑽に100%の力を注ぐことができております。残りの学生生活も、この恵まれた環境への感謝を胸に、より一層精進してまいります。



東京科学大学大学院
物質理工学院材料系修士1年

いつも多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございます。
心より感謝申し上げます。

つい先日、秋の国際学会の予稿が accept され、参加することが決定しました。

国際学会への参加は初めてで、英語で発表するためこれから英語の勉強にも励みたいです。

今回は会場がスイスなのですが、初めてスイスに行けることにおいても非常に楽しみです。

学会もちろん全力で取り組みたいですが、隙間時間を縫ってスイスを目いっぱい体感したいです。

また、現在就職活動も少し始め、夏インターンに応募している段階です。現在半導体業界に興味があり

それに関連する企業のインターンに参加したいと考えています。実際に働いている現場を体験して、

企業での研究活動と研究室での研究活動の違いなどを体感し、将来のキャリアについて考えるうえで参考にしたい。

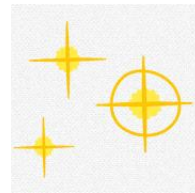
今年の6月は前年より涼しく、過ごしやすい日々が続いていてうれしいです。

実は昨日から体調を崩してしまいまして、今週から最高気温が30度を超えてきて夏が来ると思うのですが、

季節の変わり目でもう一度体調を崩さないように頑張っていきたいと感じます。

最近はイカを食べることにはまっていて、刺身で食べても食感もよく甘い。火を通してぷりぷりでおいしいという点ではまっている。

これからも勉強を中心に頑張っていきたいと思います。



東北大学
工学部
材料科学総合学科学部4年

本学科の卒業研究の中間発表が7月9日に行われました。仙台もその数日前に梅雨明けしたようでしたので、とても暑い中で行われました。中間発表は3分間の英語ショートプレゼンテーションと、1時間のポスター発表で構成されました。研究を行うのも、それを研究室の外の人に発表するのも初めての機会だったので非常に緊張したのを覚えています。

僕の研究テーマは「超白色レーザーを用いた、硫化スズ(SnS)のバレー特性に対する層数の影響解明」です。この3ヶ月では超白色レーザーの生成と、そのスペクトル評価に取り組みました。超白色レーザーの生成ではそこまで大きな躓きはなかったのですが、スペクトル測定では、自分自身で分光器に相当する系を構築したこともあり、思うように実験を勧められませんでした。予想に反する結果やアクシデントが重なりギリギリまで実験をしていたこともあり、余裕を持って資料準備が行えませんでした。自身の3ヶ月間の成果と、この研究の面白さをどのような流れで伝えるべきかを、短期間でまとめる必要があり、体力的にも精神的にも疲弊してしまいました。

本番では、自信を持って堂々と、これまでの努力と成果をアピールできました。僕が所属する材料科学総合学科学部では、組織図をもとに材料を作って、それを評価するという研究を行う4年生が多いですが、打って変わって「光」にフィーチャーした僕の発表やポスターには目を引くものだったのではないかと考えています。しかしその反面、材料、今回であれば硫化スズ(SnS)に対する理解は周囲に比べ十分ではないと感じています。今後は、実験と、物理の理解を並行して進めていくことができるよう、限られた時間の使い方を工夫したいと感じています。

今月以降は、古河記念基金の奨学金支給が開始しますので、アルバイトに費やす時間を減らせる見込みのため、将来自身の研究で社会還元ができるよう、一層研究に邁進していく所存です。



東邦大学大学院
理学研究科
生物学専攻博士1年

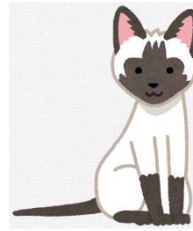
奨学金によるご支援を賜り、誠にありがとうございます。
現在私は、頂いたご支援に応えるべく、日々研究活動に邁進しております。今回は、現在進めている研究について簡単に紹介させていただきます。

皆さんも、コモドオオトカゲやミステリークレイフィッシュという生物の名前を聞いたことがあるかもしれません。これらの生物は、オスと交配することなく、メスのみで次世代をつくる「単為発生」という能力を持っています。一方、ヒトを含む哺乳類では、メスのみから子供をつくることはできません。その主な理由の一つが、哺乳類に特有の「ゲノムインプリンティング」という仕組みです。私たちは父親と母親から一組ずつ遺伝情報を受け継ぎますが、一部の遺伝子は、父親由来または母親由来のどちらか一方から受け継いだものだけが働くように制御されています。そのため、卵子由来の遺伝情報だけを持つ雌性単為発生胚では、本来は父親由来の遺伝子が十分に発現せず、正常に成長することができません。

私たちの研究グループでは、どの遺伝子の異常が哺乳類の単為発生を妨げているのかを、遺伝子改変マウスを用いて調べています。研究ではまず、未受精卵に人工的な刺激を加え、受精していなくても発生を開始する「単為発生胚」を作製します。さらに、通常は父親由来の遺伝子が、母親由来の遺伝情報しか持たない単為発生胚でも発現するように遺伝子改変を行いました。

通常、マウスの単為発生胚は胎生 9.5 日頃までに死亡しますが、私の研究では、特定の遺伝子改変を行った一部の単為発生胚が胎生 11.5 日まで生存し、同時期の受精胚とほぼ同等の外見を示すことを発見しました。この成果は、父親由来の遺伝子が哺乳類の正常な発生に果たす役割を明らかにするうえで、重要な手がかりになると考えています。

頂いたご支援を糧に、今後もさらに研究に邁進していく所存です。皆様のますますのご健勝を心よりお祈り申し上げます。



早稲田大学大学院
創造理工学研究科
地球・環境資源理工学専攻
修士2年

現在は、英語論文の執筆に向けて、追加実験やデータの収集・整理に取り組んでいます。最近九州大学の先生との共同研究も進めており、7月17日の実験では非常に良い結果を得ることができました。今後さらに詳しく分析する必要がありますが、この成果を現在執筆中の論文にも活用できるのではないかと期待しています。研究が少しずつ形になっていくことに、大きなやりがいを感じています。

また、11月にタイで開催される国際学会で研究成果を発表する予定です。現在は、発表用ポスターと英語原稿の作成を並行して進めています。英語で自分の研究を分かりやすく伝えることは簡単ではありませんが、海外の研究者と交流できる貴重な機会ですので、十分に準備して臨みたいと思います。

さらに最近、幸運にも半導体分野の研究インターンシップに参加する機会をいただきました。これまで大学で取り組んできた半導体材料の研究が、実際の研究開発の現場でどのように活用されているのかを学びたいと考えています。新しい環境でさまざまな知識や経験を吸収し、今後の研究にも生かしていきたいです。



広島大学
理学部化学科学部 4 年

この度は、貴財団の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。私の近況についてご報告申し上げます。

今年 3 月に研究室へ配属され、7 月ではや 4 か月が経ちました。研究室に配属されてからは、授業や課題をこなしていた生活とは大きく変わり、自ら課題を設定し、実験を計画・実施・解析して次の実験につなげる研究中心の生活を送っています。先生方からいただくご指導をもとに試行錯誤を重ねる中で、研究の難しさと奥深さを日々実感しています。

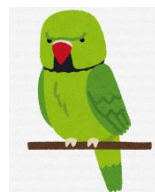
現在は、シリコン量子ドットの機能向上に関する研究に取り組んでいます。まだ具体的な成果を得られる段階ではありませんが、実験を論理的に組み立てる力や、ゼミで研究内容を分かりやすく伝える力を身につけられるよう努力しています。また、論文を読む機会も増え、自分の研究テーマへの理解が深まり、今後の研究の方向性も少しずつ具体的になってきました。

7 月には大学院の推薦入試があり、無事に合格することができました。推薦入試では、現在の研究内容や大学院で身につけたい能力について整理する機会となり、自分の研究への考えを改めて見つめ直すことができました。

また、同じく 7 月には研究室対抗のソフトボール大会に参加しました。野球やソフトボールは未経験だったため、先輩方にキャッチボールから教えていただきました。試合ではヒットを打って得点につなげることができ、守備でも打球を捕球できた際には先輩方から声を掛けていただき、とても嬉しく感じました。仲間と一つの目標に向かって取り組む楽しさや、教えていただいたことを実践しながら上達していく喜びを実感し、研究室の皆さんとの交流を深める良い機会となりました。

貴財団のご支援により、経済的な不安が軽減され、家庭の状況にも変化がある中でも安心して研究や学業に専念することができています。心より感謝申し上げます。

9 月には研究の中間報告を控えています。夏季休業を有効に活用し、論文を通して知識を深めるとともに、多様な測定手法を経験しながら研究をさらに前進させられるよう努力してまいります。今後も感謝の気持ちを忘れず、学業と研究に真摯に取り組んでまいります。



広島大学
理学部化学科学部 4 年

平素より多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。貴基金からご支援いただいている奨学金のおかげで、研究をはじめとする充実した大学生活を送ることができております。改めまして、深く感謝申し上げます。

今月は大学院の推薦入試があり、無事に合格することができました。面接のみの試験であったため、教授からどのような質問をされるのか緊張しましたが、研究や将来に対する考えを自分なりに伝えることができました。現在は、PFAS の分解手法に関する研究に取り組んでいます。私のテーマは研究室でも初めての試みであり、安全な実験条件の検討に時間を要しているため、本格的な実験はまだ思うように進められていません。卒論に向けて焦りを感じることもありますが、文献調査や実験条件の検討など、今できることを一つずつ着実に進めています。先日、買い物に出かけた際には、PFAS 除去フィルター付きのウォーターサーバーを見かけました。以前なら気にも留めなかったと思いますが、今では自然と目に留まり、自分の研究が社会と深く関わっていることを改めて実感しました。また、先月は研究室のゼミ旅行で福山と倉敷を訪れ、論文紹介を行いました。本来は二日目に鷺羽山ハイランドへ行く予定でしたが、強風で多くのアトラクションが運休となり、倉敷美観地区を観光しました。少し残念ではありましたが、研究室のメンバーとの交流を深める良い機会となりました。また、実家では新たにオキナインコを迎え入れ、これまで飼っていた 2 羽と合わせて 3 羽になったそうです。まだ幼いようなので、できるだけ早いうちに帰省して仲良くなりたいと思っています。研究の合間の楽しみが一つ増えました。

9 月には研究室での中間発表を控えています。研究室に配属されてから早くも 5 か月が経ちますが、支えてくださる皆様への感謝を忘れず、今後も研究と勉学に精一杯励みたいと思います。



信州大学大学院
総合理工学研究科
工学専攻修士1年

今年度も奨学生への採用、ありがとうございます。今年から大学院へ進学し、学部時代に行っていた研究を深めつつ、就職活動や就職活動に付随してスキルアップなどに取り組んでいます。

研究では、8月に国際学会への発表が決まっており、それに向けての準備に取り組んでいます。教授曰く、学会自体は大した学会ではないそうなのですが、私としては初めての学会ということと英語発表ということで、胃が痛む思いです。英語が苦手なため、英語の学習をできるだけ避けてきてしまったので、この機会を生かしていきたいと考えています。

また、就職活動では地元や出身県で活躍という思いと、機械への興味とAIの知識を用いた仕事がしたいという思いから、県内のメーカーで、AIを活用した開発やものづくりに携われる企業を中心に選考を受けています。

就職する前に、設計から実装までを自分ですべて行うような、本格的な開発経験がしたいという思いがあり、個人でiOSアプリの開発に取り組んでおり、市場調査から設計・実装、公開までを行っています。就職活動でもその経験をアピールしたいと考えています。

こうして研究・就職活動・スキルアップに集中して取り組んでいるのも、貴財団のご支援のおかげです。改めて御礼申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



東京科学大学大学院
工学院電子電子系博士2年

博士課程で身に付けるべき能力で最も大切なものの1つとして、理科系の作文能力があります。理科系の作文には、決まりがあります。まず、1つの段落には1つのメッセージを書くこと。段落の最初にはそのメッセージを1文で書くこと。その後にはそのメッセージを説明する文章を繋げること。繋げる文章では、主語に既出の情報を置き、述語に新情報を置くこと。これらの決まりに則って作文をする能力は、一朝一夕で身に付くものではありません。文章を書いて、人に読んでもらって、直すことを繰り返すことが大事で、それをするには博士課程が格好の場所です。

一方で、日々の文章の書き方は、AIの賢くなったここ数年で完全に変わりました。まずは自分の頭で、段落のメッセージと、メッセージを支えるための説明の論理構造を考えます。この論理構造を箇条書きでAIに打ち込むと、AIが滑らかに繋いでくれます。したがって、細かい言葉遣いや文法、接続詞を考える必要がありません。極端な話、説明に登場する語だけ羅列しておけば、AIが綺麗な文章を書いてくれます。

したがって、良い文章を書くためには、文章を読んで良し悪しを判別できればいいことになります。自分の書きたいことの論理構造を分かっているならば、それを順番に並べるだけでAIが作文をしてくれます。作文された文章を読んで、良い文章と悪い文章を区別できれば、良い文章を書けることになります。しかし依然として、文章の良し悪しを判別するためには、良い文章を書く練習を積むことが一番効果的とも思います。ただ残念ながら、AIが5分で80点の文章を書ける時代に、自分が1日かけて100点の文章を書く練習をする気にはとてもなれません。将来、研究の質は確実に上がっていく一方で、文章の質は、どのようになるのか、不安です。



東京科学大学大学院
物質理工学院
応用化学系博士 1 年

盛夏の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。毎日暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

私は現在、大学院博士課程で有機金属化学の研究に取り組んでいます。イリジウム触媒を用いた新しい反応の開発をテーマに、毎日研究室で実験と解析を繰り返す日々を送っています。思うような結果が出ず苦勞することも多いですが、この一年で新しい成果も得られ、少しずつ研究が前に進んでいることを実感しています。

今年は韓国で開催された国際学会に参加し、自分の研究について英語で発表する機会にも恵まれました。海外の研究者と直接議論するのは初めての経験で緊張しましたが、自分とは異なる視点から多くの意見や質問をいただき、とても良い刺激になりました。研究内容だけでなく、英語で伝える難しさや楽しさも実感でき、貴重な経験になったと思います。

これからも一つひとつの実験を大切に積み重ねながら、新しい発見につながる研究を進めていきたいと考えています。暑い日が続きますので、皆様もどうぞお体に気を付けてお過ごしください。



順天堂大学
薬学部薬学科学部 3 年

日頃より温かいご支援を賜り誠にありがとうございます。

皆様のご支援のおかげで、今年度も学業や課外活動に励むことができております。

私は、薬学部 3 年生として専門科目や実習に励んでおります。現在は 3 年後期より始まる研究室配属を控えつつ、定期試験に向けた勉強に追われる毎日を送っております。3 年生になり、授業や実習内容の難しさがより一層増していることを実感しますが、新たな知見を得ることによって充実感も得ております。

また学業と並行して、本学の薬学部学生広報委員会の活動にも力を入れております。委員会では、オープン

キャンパスの企画・運営や学部公式 SNS の記事作成に携わり、まだ歴史の浅い本学薬学部の魅力を伝えるための活動をしております。委員同士で試行錯誤を重ねながら活動を続けた結果、開設 3 年目を迎えた薬学部公式 SNS のフォロワー数は 1000 人を超えました。多くの方に情報や魅力を届けられるようになったことはもちろん、受験生時代に参考にしていただいていたという声をいただくこともあり、広報活動に日々やりがいを感じております。

改めまして、日頃より温かいご支援をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。今後も学業と課外活動の両立に努め、一つ一つの経験を大切にしながら成長してまいります。引き続き、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



早稲田大学大学院
先進理工学研究科
物理学及应用物理学専攻修士 2 年

今年で研究生活も 3 年目に入り、引き続き物理リザーバーコンピューティングに関する 2 つのテーマを並行して研究しています。1 つは、光を入力信号として使用したセンサーと情報処理一体型デバイスの開発です。もう 1 つは、アナログカメラから取得した人の手の動きを表す時系列信号を入力として利用し、じゃんけんの「グー、チョキ、パー」を識別する研究です。物理リザーバーコンピューティングとは機械学習の 1 種であり、特に時系列データの処理に優れているという特徴があります。従来のニューラルネットワークでは、入力から出力までの多数の重みを学習・最適化します。物理リザーバーコンピューティングでは、入力信号の変換をデバイス内部のイオンや電子の動きといった物理現象が担うため、学習に必要なのは出力層のみになります。その結果、高速かつ低消費電力な情報処理が可能になります。現在、じゃんけん分類の研究では、アナログカメラから取得した時系列データを液晶デバイスに入力し、そのデバイスで生じる配向変化を利用して画像の特徴を抽出し、分類性能を測っています。また、同じ分類課題に対し、深層学習モデルである畳み込みニューラルネットワークとの性能比較を行うことで、時系列データの処理における本手法の有効性や優位性を検証しています。今年度は、本手法の有効性を示す成果が得られ始めています。今後は、学会

発表や論文投稿を通じて研究成果を広く発信するとともに、実用化や幅広い応用分野への展開につながる研究を進めていきたいと考えています。

奨学生としての自覚を持ち、一層研究に励んでまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



東京科学大学大学院
環境社会理工学院
土木環境工学系修士2年

日頃よりご支援いただき、誠にありがとうございます。

修士2年になり、研究のペースを上げつつ、最後の学生生活を思う存分楽しもうと日々過ごしています。

私は土質研究室に所属し、堤防のパイピングに関する研究に取り組んでいます。確率場を用いて透水係数が不均一な地盤モデルを作成し、有限要素法を用いた浸透流解析を行っています。

これまでのパイピングに関する研究は解析、実験ともに均一地盤を対象として行われてきました。しかし、実際の地盤は透水係数や密度、粒度などが場所によって異なる不均一性を有しています。一方で、このような地盤の不均一性がパイピング発生や進展にどのような影響を及ぼすのかは明らかになっていません。

そこで、本研究では不均一地盤における浸透流解析を通じて、従来の均一地盤との違いを比較するとともに、どのような不均一性がパイピングの発生、進展に影響を及ぼすのかを明らかにすることを目的としています。

日々研究に取り組む一方で、最後の学生生活も大切にしています。春には土木同期と学内でお花見を楽しみ、夏にはコンクリート研究室のハンマーを借りてスイカ割りをするなど、季節のイベントを楽しんでいます。研究と学生生活の両方を充実させながら、残りの学生生活を有意義に過ごしたいです。



東京農工大学大学院
先進学際科学府
先進学際科学専攻修士2年

昨年から引き続き奨学生として採用いただき、感謝申し上げます。酷暑が続いておりますが、皆様どのようにお過ごしでしょうか。ここでは昨年の5月から今年の3月末で行っていた就職活動について、その結果とそれを受けた自分の考えをお話出来ればと思います。

就職活動の結果、エネルギー・環境分野の研究へ資金配分を行う国立研究開発法人で来年の4月から働くこととなりました。貴基金の奨学金へ申し込む際の作文(書いたのはもう4年前ですが)で自分の目標として書いた「様々な人達と協力し合って環境問題の解決に取り組む社会に貢献すること」を実現できる仕事に就けることとなり自分自身とても驚いています。何故なら「環境問題の解決に取り組みたい」という自分の意志に対して現在に至るまで何度も挫折を繰り返してきたためです。実際にごみ問題に取り組む学生団体に所属したり自分の関心に近いテーマの研究室や業界を志望したりしてきたものの、仲間と上手く行かなかったりそもそも受け皿が無かったりと自分のその意志をより具体化し行動を起こすことができないままでした。そのような経緯がありつつも、最終的には自分の目標に限りなく近い結果(就職先)に辿り着きました。そのため、念ずれば通ずるというのか、挫折したり意志を曲げなければならないことがあったりしても、そして自分の意志の火が小さくなったとしてもそれを持ったままで悪いことは無いのだなと感じました。

現在は修士論文の完成に向けて、日々土壌の分析に追われております。一つのことに長期間かけて取り組めるのも学生の特権だと考えています。この特権を修士課程修了まで余すことなく享受しようと思います。

末筆になりますが、学部から院にかけて金銭面の心配なく自分の関心に深く向き合うことができたのは貴基金からの厚い支援があつてこそでした。この場を借りて深く御礼申し上げます。



東京科学大学大学院
物質理工学院
材料系博士 2 年

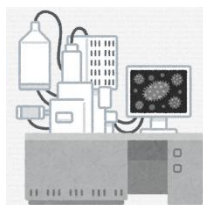
盛夏の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日々続く猛暑の中、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

現在私は博士後期課程 2 年に在学しており、研究活動に専念しております。本年 3 月には、アメリカで開催された国際学会において口頭発表を行いました。多くの研究者の方々から貴重なご意見やご助言をいただき、今後の研究の方向性を考えるうえで大変有意義な機会となりました。さらに本年 8 月には、オーストラリアで開催される国際学会においても口頭発表を予定しております。前回の経験を活かし、準備を万端にして発表に臨む所存です。

こうした発表の場でいただいたご意見も踏まえ、現在はいくつまでに得られた成果を論文としてまとめるべく、執筆を進めております。結果の整理や考察を重ねる中で、研究の課題や今後の展開がより明確化しており、引き続き着実に成果を形にしていきたいと思います。

末筆ながら、古河記念基金様のご支援により、このように研究活動に専念できる環境を与えていただいていることに深謝申し上げます。奨学生としての誇りと責任を持ち、自身の研究の価値を適切に伝えられるよう、日々研鑽を積む所存です。

今後も一層努力を重ね、期待に応えられるよう邁進してまいります。



慶應義塾大学大学院
理工学研究科
基礎理工学専攻博士 2 年

本年度も引き続き奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。

私は現在量子光源を利用した新しい顕微鏡技術の研究に取り組んでいます。一般的なレーザー光とは異なる、二つの光の間に強い相関を持つ「量子相関光」を発生させ、その特性を生体組織の観察に活用することを目指しています。

最近では、この量子光源を用いた和周波発生(SFG)顕微鏡を構築し、ヒト皮膚の真皮に含まれるコラーゲンなどの測定を進めています。取得した信号を相関成分と非相関成分に分けて解析した結果、相関成分を利用した画像では、組織の境界や隣接する構造がより明瞭に観察でき、空間分解能やコントラストの向上が示唆されました。また、比較的弱い光でも効率よく測定できる可能性があり、生体試料への負担を抑えた観察技術としての応用が期待されます。

研究成果については学会でポスター発表を行い、多くの先生方や研究者の方々から貴重なご意見をいただきました。発表準備を通して、専門的な内容を分かりやすく伝えることの難しさと大切さも実感しました。今後は従来のレーザー光源との比較実験を進め、量子光源の利点をより明確にするとともに、生体組織の高感度・低侵襲イメージングへの展開を目指します。



明治大学
理工学部
機械情報工学科学部 4 年

この度は、奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。日頃より温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。本稿では、現在取り組んでいる研究活動を中心に、研究や日常生活における近況についてご報告させていただきます。

現在、私は所属研究室において、自動車企業との共同研究として、メタン空気予混合燃焼の可視化に取り組んでいます。近年、カーボンニュートラル社会の実現に向けて、メタンをはじめとする低炭素燃料の活用が期待されており、その燃焼現象を詳細に理解することは、内燃機関の高効率化や環境負荷低減につながる重要な課題です。

研究では、燃焼容器内でメタンと空気を予混合して燃焼させ、その際に生じる火炎の挙動や壁面への熱伝達を、高速度カメラと赤外線カメラを用いて可視化しています。特に、燃焼によって熱が壁面へどのように伝わり、どの程度熱損失が発生しているのかを明らかにすることを目的としています。取得した温度分布から壁面熱流束を算出し、燃焼現象との関係を解析することで、エネルギー損失の低減につながる知見の獲得を目指しています。企業との共同研究を通して、実際の自動車技術へ応用される研究に直接携われていることに、大きなやりがいを感じています。

また、研究活動の傍ら、アルバイトにも励み、そこで得た収入で今夏はインドネシア旅行を予定しています。海外では、異なる文化や価値観に直接触れることで、自分の視野を広げることができると感じています。現地での新たな経験を通して、研究だけでは得られない知見も身につけたいと考えております。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えていただいていることへの感謝を忘れず、奨学生としての自覚を持って研究活動に励み、将来は内燃機関の高効率化や環境負荷低減に貢献できる技術者を目指して、より一層努力してまいります。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



徳島大学大学院
薬学研究科
創薬科学専攻博士 2 年

今年度も引き続き奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。物価の上昇が続く中、継続してご支援いただけることは大変心強く、安心して研究や将来に向けた活動に取り組めることに感謝いたします。

現在は、凝集性タンパク質の効率的な化学合成法の開発に取り組んでいます。昨年度に開発した手法を実際のタンパク質合成へと応用し、現在は研究の最終段階に入っています。困難な課題に直面することも多くありますが、研究室メンバーと議論しながら試行錯誤しています。周囲と協力しながら一つひとつ課題を解決し、研究成果を形にする過程に大きなやりがいを感じています。

また、上記研究に加え、修士課程で行った研究の派生研究にも、後輩学生と共に取り組んでいます。後輩とは研究の進め方や実験結果について日々議論し、一緒に課題の原因を考えながら解決策を模索しています。自分の知識を伝えるだけでなく、後輩からも意見をもらうことで、自分では気づけなかった視点を得ることもあり、協働することの重要性を実感しています。現在は、論文執筆の段階まで進んでおり、さらにそこから派生した新たな研究にも着手しています。

今年度は就職活動が始まり、研究との両立に取り組む中で、昨年度以上に多忙な日々を送っています。昨年度は研究と生活の時間を調整しながら過ごすことができていましたが、現在は研究や就職活動に充てる時間が増え、生活面での時間的な余裕が少なくなりました。そのような中で、貴財団からのご支援は経済的な面で大きな支えとなっており、研究と就職活動の両立に専念することができています。

今後も、これまで培ってきた専門性を活かし、周囲との協働を大切にしながら研究に邁進するとともに、将来は研究者として社会に貢献できる人材となれるよう、精一杯努力してまいります。改めまして、温かいご支援に心より感謝申し上げます。



東京電機大学
工学部
先端機械工学科学部 2 年

この度は貴財団の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。

暑い日々が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

現在、私は先端機械工学科の 2 年生として学業に励んでおります。2 年生に進級し、1 年次とは大きく変わり、実験や製図、日々課される課題に追われる忙しくも充実した毎日を送っております。特に今学期は授業の専門性が高まったこともあり、事前の学習により時間をかけ、目的意識を持って授業に臨むという主体的な学びの姿勢が強く求められたと感じています。あらかじめ課題やテーマへの理解を深めておくことで、当日の授業の理解度が一段と高まることを実感いたしました。

また、ある授業で得た知識や技術が、数週間後の別の授業でそのまま活かされる機会が多々ありました。学んだ知識が分野を超えて繋がっていく感覚を得ることができ、学ぶことの面白さを身をもって体感しております。

貴財団からの温かいご支援のおかげで、不安なく学業に専念できていることに心より感謝申し上げます。今後もこの感謝の気持ちを忘れず、より一層身を引き締めて学問に邁進してまいります。

まだしばらくは厳しい暑さが続きますので、皆様どうぞご自愛ください。



関西学院大学
生命環境学部
生命医科学科学部 3 年

私は、生命医科学科で変わらず、ヒトを含む哺乳動物に関する生命現象を解明し、基礎医学分野へ応用できる知識・技術を日々学び、また体験し、人の健康維持、未来の医療に役立てることを目指して日々勉学に努めています。特に基礎医学として生理学、薬理学、免疫学を学び生体内で起こる生体システムの採用機序を、さらにデータ科学として医療データの解析方法、臨床研究の評価指標について学んでいます。

免疫学においては、免疫系が関与する病態や治療な

どについても学び、人類の健康維持および病気の克服につながる知識を身に付ける機会を得ました。免疫系は多種多様で、理解を深めるのは容易ではありません。一方で、新たな知識が自分の中に積み重なっていく喜びを感じ、学ぶことへの知的好奇心がより一層高まってきております。

この 7 月、利根川進氏(日本人初のノーベル生理・医学賞を受賞)の訃報に接しました。自分が学んでいる免疫学の根幹と言える「遺伝子の断片の組み合わせ(再編成)による多種多様な抗体を作り出す仕組み」を解明した偉大な博士であっただけに、大変残念に思うとともに、その功績の大きさに改めて実感しました。

また、多様性として T 細胞を挙げると、ヘルパー T 細胞やキラー T 細胞、ナチュラルキラー T 細胞、さらには坂口志文氏(昨年にノーベル生理学・医学賞を受賞)が発見した制御性 T 細胞などが存在し、それぞれが異なる役割を担いながら生体を守っています。多種多様な免疫システムが私たちの体内で働き、病原体から守ってくれていることに大きな興味を抱き、また生命科学の奥深さを改めて実感しました。

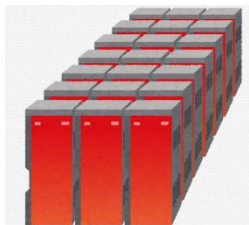
人の健康を守るのは、医師などの医療従事者だけではなく、学びを極める医学研究者もその一員であることに改めて気づきました。私自身も、学びを深め、研究を通して医療を支える研究者となることを目標に、成長のための努力を続けて参ります。

● 近況報告の内容に含めなかったのですが、実験として、
・難病(嚢胞性線維症)に関わる膜タンパク質の発現、局在の解析
・マウス脳の切片を透明化、神経微細構造の可視化解析
・心拍変動と自律神経活動との関係を解析(生体信号解析)

など、研究室配属に向けて、上記のように各研究室で取り組まれている研究に触れ、専門的な研究へとつながる知識・技術を学ぶ機会がありました。

秋学期の 12 月頃からは、研究室に仮配属される予定です。

この夏期休暇期間は、研究室配属や大学院進学を含めた将来の進路について熟考し、自分が取り組む研究分野を見据える大切な期間として有効に活用したいと考えています。



東北大学大学院
工学研究科
ファインメカニクス専攻修士1年

東北大学大学院工学研究科ファインメカニクス専攻修士課程1年の諏佐悠と申します。昨年度に引き続き、本年度も奨学生として採用していただき、ありがとうございます。

近況報告を書いているのは7月下旬ですが、研究活動や学会発表に向けた準備に励んでおります。私の所属している研究室では、燃料電池や二次電池、半導体などを対象に、それらの内部におけるナノスケールの「流れ」などの現象を、スーパーコンピュータを用いて解析する研究が行われております。私はその中でも、二次電池の1つである「全固体リチウムイオン電池」を対象に、リチウムイオンの輸送特性に関する研究を行っております。現在は、数値シミュレーションにおいて非常に重要である「ポテンシャル関数」のさらなる精度向上を目指して、第一原理計算と機械学習を組み合わせる新しい計算モデルを開発し、検証等を行っています。研究により得られた成果は、10月と12月に行われる国際学会で発表予定となっており、口頭発表やポスター発表に向けた準備も並行して行っております。

また、進路の話にはなりますが、現在就職と博士課程進学で悩んでおります。研究にも

取り組みながら、就職活動にも並行して取り組んでいるため忙しい状況ではありますが、自分の将来をよく考えるよい機会であると感じております。8月や9月には、複数社のインターンにも参加いたしますので、研究だけでなく働く現場も体感し、後悔のない選択をすることができるよう、もう少し悩みたいと思います。

最後になりますが、奨学生としての自覚をもって研究に取り組んでまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



横浜市立大学大学院
生命ナノシステム科学研究科
生命環境システム科学専攻修士2年

学部4年次よりご支援を賜り、本年度で3年目を迎えます。これまで継続してご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年度は二度の学会発表の機会をいただき、研究成果について多くの研究者と議論する貴重な機会を経験をしてまいりました。また、修士課程の集大成として取り組んできた論文についても、先日国際ジャーナルへの投稿を終え、一つの節目を迎えることができました。さらに、研究成果の社会実装について考える中で、研究開発を支える長期的な投融資の重要性を実感し、来年度より政府系金融機関へ就職する予定です。今後は、研究開発の社会実装を金融の立場から後押しし、日本の産業や科学技術の発展に貢献できる人材を目指して、引き続き学びを深めてまいります。

また、9月上旬には、外務省が推進する対日理解促進交流プログラムの一環として、ルワンダ共和国へ渡航することが決定しております。本プログラムでは、日本とアフリカの相互理解や交流の促進を目的として、現地での視察や学生との交流に参加する予定です。現地の方々との対話や体験を通じて、多様な価値観や社会課題への理解を深めるとともに、日本の魅力や文化についても積極的に発信し、日本とアフリカをつなぐ架け橋となれるよう努めたいと考えております。この経験を自身の成長だけでなく、今後の研究や社会での活動にも生かしてまいります。

これらの経験を積み重ねることができましたのも、貴財団からのご支援があったからこそ深く感謝しております。末筆ではございますが、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



横浜国立大学大学院
理工学府数物・
電子情報系理工学専攻
物理工学教育分野博士1年

ドイツへ短期留学中

みなさん、こんにちは。日本の夏は暑いでしょうか。私は 7 月からドイツのウルム大学で研究留学をしています。約 1 か月が過ぎ、こちらでの生活にもようやく慣れてきました。

ドイツに来てまず驚いたことは、電車に乗る際、日本のような改札口がないことです。また、ドイツには一定期間、電車やバスが乗り放題になるプランがあり、公共交通機関をととても便利に利用できます。さらに、スーパーにはペットボトルなどを回収する機械が設置されており、リサイクルすると 1 本につき 0.25 ユーロが返金される仕組みがあります。環境に配慮した制度であると同時に、少し得をした気分にもなります。

普段の研究室では英語でコミュニケーションが取れるため研究には困りませんが、街へ出ると看板や商品の表示、店員さんとのやり取りはドイツ語が中心です。そのため、研究の合間を見つけては、少しずつドイツ語も勉強しています。

平日は研究室で実験や議論に取り組み、週末はヨーロッパの文化や歴史に触れるため、できるだけ旅行をするよう心掛けています。最近では、ミュンヘン、シュツットガルト、ネルトリンゲンを訪れました。ネルトリンゲンは、アニメ『進撃の巨人』のモデルになったといわれる城壁町で、日本人観光客の姿も見かけるなど、近年人気が高まっているようです。

研究留学は 9 月末まで続く予定です。残りの期間も研究に全力で取り組むとともに、ドイツならではの文化や生活にも積極的に触れ、多くのことを学びたいと思います。



日本大学
生物資源科学部学部2年

この報告を書いている今日、ちょうど前期の期末テストが終わり明日から夏休みに入ります。2年生に入ってからより専門的な科目が増え、勉強の難易度も高くなりました。勉強は大変なこともあります。自分の好きな分野であり自分の夢のための勉強は楽しく、新しい知識を学ぶ毎日とはとても充実しています。

サークル活動にも積極的に参加しています。私は吹奏楽のサークルに所属しており、6月にはサマーコンサートを行いました。多くの学生や教授など沢山の方が演奏を聴きに来てくださり、やりがいのある楽しい演奏会になりました。次は最大のイベントである学祭での演奏に向けて練習を続けていきます。

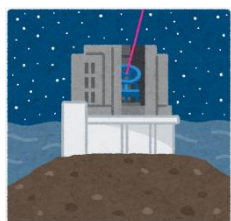
また、アルバイトでは動物病院で診療の手伝いや受付業務などを行っています。動物病院では学校では学んでいないような疾患や薬剤など授業以上に多くの学びがあり、より実践的な技術も少しずつ身につけてきました。言葉の発せない相手と向き合うことは大変ですが、この学科に入学した理由を再確認する機会であり勉強のモチベーションにもつながっています。数少ない病院でのアルバイトを活かし、さらに多くの知識と手技を身につけていきたいです。

近況では学校生活と私生活でも充実した日々を過ごしています。後期では研究室選びがあります。動物が好きでどの分野もおもしろいので、まだどんな研究がしたいかはっきり決められていません。後期の学習を通して将来につなげられるような研究ができるよう、この先も引き続き頑張っていきたいと思います。



日本大学
生産工学部学部 4 年

今年は研究活動、アルバイト、サークル活動を両立し、充実した日々を送っています。学科で唯一のロボットの研究室に所属しており、セラピーロボットの研究を行っています。サークルは軽音サークルに所属しており、キーボードを演奏しています。研究、アルバイトをしながら活動するのは厳しいときもありますが、私が 4 年生となった今、関わりのなかった後輩と仲を深めることができる良いきっかけになりました。アルバイトではアパレルの接客販売を行っています。年齢もニーズも幅広いお客様と 1 日にたくさんお話をするため、この 2 年間でコミュニケーション能力を培うことができたと感じています。4 年生では授業が終了し、友人と話す機会が減ってしまいましたが、こうしてサークルやアルバイトが仲間とコミュニケーションをとる大切な時間です。この大学生活で学んだ重要なことは、自分の居場所を複数持つということです。今ある友人関係や出会いに感謝し、大学卒業まで大切にしていきたいと思います。



名古屋大学大学院
理学研究科
理学専攻博士 2 年

このたびはご支援をいただき、誠にありがとうございます。近況について、以下のとおり報告いたします。

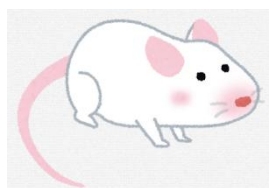
現在、私は重力波望遠鏡に関する研究に取り組んでいます。今年 5 月まではルイジアナ州に滞在し、LIGO Livingston Observatory において研究活動を行いました。現地では、実際に稼働している重力波望遠鏡に関わる研究環境に身を置き、研究者との議論や共同研究を通して、装置の運用や光学系に関する理解を深めました。

現在はニューヨーク州に滞在し、次世代重力波望遠鏡 Cosmic Explorer の研究を進めています。主にレーザー光の伝播や光学系の設計、光学素子の誤差や熱の影響を補正する方法について、数値シミュレーションを用いて検討しています。異なる研究環境の中で、さまざ

まな立場の研究者と議論することは、自分の研究を見直し、発展させる貴重な機会となっています。

また、9 月にはインドを訪問し、国際的な研究会に参加する予定です。海外の研究者との議論を通して新たな知見を得るとともに、今後の共同研究につながる機会にしたいと考えています。研究だけでなく、それぞれの地域の文化や生活環境に触れることも、貴重な経験となっています。

今後も、いただいた機会を最大限に活かし、引き続き真摯に研究活動に取り組んでまいります。何卒よろしくお願い申し上げます



京都産業大学大学院
先端情報学研究科
先端情報学専攻修士 1 年

いつもお世話になっております。ご支援のおかげで学問に注力できています。

研究としては最近、マウスへの注射を主に行っていました。私の研究ではマウスの脳を広い視野で観察しながら学習を行わせ、その際の脳活動パターンを調べます。ここで用いている観察は、特殊なタンパク質を神経細胞に発現させることにより、目に見えない神経細胞の電気活動をカメラで捉えるというものです。このタンパク質は本来マウスの神経細胞には無いので、生まれて 1~2 日の新生児マウスに特殊な注射を打ち後天的に発現させます。マウスの出産はコントロールしきれないので、週末でも関係なく手術室にこもり連日処置に勤しんでいます。注入自体も、刺入の深さを数十 μm で調整する精密さが必要で難しいです。最近ようやく手技が安定してきて、少しほっとしています。注射をしたマウスが実験ができる大きさまで成長するには 2 ヶ月ほど待つ必要があります。その間を用いてこれからは実験器具を作成します。今から実験をするのが楽しみです。

研究以外の面では、目の筋肉を計測する装置を作成していました。講義で筋肉の電氣的活動を計測する方法を学んだことがきっかけで、その技術を用いることにより眼球の微細な動きを捉える（ことができるかもしれない）、従来手法より設備費が安価な方法を思いつきました。その一部として現在は、微細である眼球の電気活動を増幅しつつノイズを除去する電気回路を 3D プリントした外

装に収めた、ワイヤレスで情報を送受信するメガネ型の計測装置を作成しています。まだまだ不格好で改善点の多いものしか作れていませんが、手を動かして形ができていくのは面白いです。何か結果が出れば、また報告させていただきます。

最後に改めまして、日頃の温かいご支援に心より感謝申し上げます。奨学生として相応しい結果を出せるよう引き続き精進して参ります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

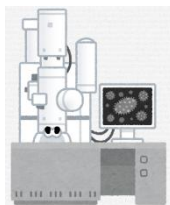


東京大学大学院
工学系研究科
技術経営戦略学専攻修士1年

暑い日が続いており、外に出るだけでも大変な季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。今回が初めての近況報告となりますので、最近印象に残った授業について書きたいと思います。私はもともと農学部で環境技術を学んでいましたが、技術が実際の社会でどのように受け入れられ、実装されるのかをより深く知りたいと考え、現在は経営系の専攻に所属しております。先日聴講した企業戦略に関する講義では、経営者が戦略を考える際には、「なぜそれを行うのか」ではなく、「なぜ他の選択肢を選ばないのか」を明確にすることがより重要であることを学びました。この考え方は、経営に限らず、研究を含むあらゆる生産的な活動に共通しているように感じます。

一方で、同じように物事を深く考えていても、研究者ごとに問いの立て方や考え方は異なり、研究領域も多岐にわたっています。私はこれまで、「なぜ自分はこの研究をしているのか」を考えることは多くありましたが、これからは「なぜ他の研究ではないのか」についても考え、自分の研究の位置づけや意義への認識を高めたいと思います。

こうした思考法は、研究だけでなく、自分が何を選び、どのように生きたいのかを考えるうえでも役立つものだと感じています。人生をより深く理解し、楽しむためにも、日々の選択について丁寧に考えていきたいです。



東京科学大学大学院
工学院機械系博士3年

いつもお世話になっております。東京科学大学工学院機械系博士後期課程3年の津久井康介です。博士前期課程1年よりご支援を賜り、本年度で奨学生として5年目を迎えました。博士後期課程の正念場に差し掛かり、改めて身の引き締まる思いで研究に取り組んでおります。

私は、機械工学を基盤として生体现象の理解を目指す“計算バイオメカニクス”を専攻しています。とりわけ、私たちの身体を構成する最小単位である細胞に着目し、細胞膜の挙動と内部の分子動態がどのように関連し、どのようなメカニズムで形づくられているのかを解明することを目指しています。そのために、接着細胞の力学モデルの構築とシミュレーション、さらに妥当性を検証するための細胞実験に取り組んでいます。

生体现象の数値モデリングには、従来の力学だけでなく、分子レベルの現象を統計的に扱う統計力学、細胞生物学・分子生物学など幅広い知識が求められます。また、生体现象をモデル化する意義を深く考える必要があり、サイエンスとしての重要性和医工学分野への応用可能性をどのように結びつけるか、その難しさを日々痛感しています。

時間をかけて取り組んできた接着細胞のモデルと実験結果をまとめた最初の論文を、先日ようやく投稿することができました。現在は、細胞膜の複雑な挙動を形づくる細胞骨格構造に焦点を当てたモデル解析を進めており、2本目の論文執筆に励んでいます。

研究とは、新しい価値の創出が常に求められる営みであり、ラボに配属されて以来、その難しさを身にしみて感じてきました。しかし、学生としての時間すべてを研究に注ぎ、その難しさと向き合うことができたのは、ひとえに財団のご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

立派な研究成果を挙げられるよう、今後も一層精進してまいります。



豊橋技術科学大学大学院
工学研究科情報・
知能工学専攻修士 2 年

最近、自身の研究に活かせる知見を探すため、日々論文を読んでいます。特に「Mechanistic Interpretability」という、AI モデルの思考過程を解析する分野に関心を持っています。また、今年の 6 月に『ゼロから作るディープラーニング 6』が発売されたため、すぐに注文しました。現在は忙しくまだ読めていませんが、夏季休業期間中にじっくり読み進める予定です。

一方で、研究室にこもりがちな生活を改善するため、運動も兼ねて大学近くの畑で農作業の手伝いを始めました。無料で体を動かせるだけでなく、新鮮な野菜も頂けるため、自炊の助けにもなっています。さらに月に一度、隣町の有志団体の活動にも参加し、耕作放棄地の整備の手伝いを行っています。こちらも運動目的ですが、謝礼が出た際には自分へのご褒美として美味しいものを食に行き、良い息抜きになっています。

あっという間に、あと半年強で学生生活も終わります。残りの日々を悔いなく過ごせるよう、勉学もそれ以外も全力で楽しんでいきたいと思っています。



横浜国立大学大学院
理工学府化学・
生命系理工学専攻

時候の挨拶も吹き飛んでしまうような猛暑の折、皆様いかがお過ごしでしょうか。

近況報告ということで、こちらを認めさせていただいておりますが最近の猛暑が凄絶すぎて暑いに書く内容を焼かれてしまいそうです。

ですので、今回はその猛暑にも負けないような報告をさせていただければと思います。以下、用意していただくものになります。

材料: 好みの夏野菜(スーパーで特売だとなお良し)、好きな香草もしくは果物(大葉やレモンなど)、氷、めんつゆ、お酢、油、フライパン、冷蔵庫に入るギリギリのサイズのタッパー

調理工程: 好みの夏野菜をむしゃくしゃしながら大きめのサイズに切ります。香草、果物類を切ってタッパーに入れます。氷、めんつゆ、お酢をいい感じにタッパーに入れて混ぜておく。フライパンに入れられるだけ夏野菜を入れ、油を回しかけます。火をつけて焼きます。トマトやきゅうりなどの焼けたさに溶けそうな野菜は適宜取り出してタッパーに入れる。全部焼けた感じがしたらタッパーに入れる。粗熱を氷で無理やりとって冷蔵庫に入れ、放置。

これで、むしゃくしゃしたときにいつでも食べられる夏野菜の焼き浸しが完成します。以降はこれを食べながらお読みください。

博士課程 3 年ということで、研究を纏める時期になってきました。自分の研究内容は、自然言語処理と化合物活性の予測という内容であり、先行研究が著しく少ない内容になっています。ということで、先行研究をまとめる作業に苦心しながら博士論文の序論を書き上げているという次第です。また、所属研究室ではこの組み合わせの内容をしているのが、後輩の 2 人だけであり、その後輩に何か残せるようにしている状態です。うち一人は学部生ということで、資金が足りないため、外部の支援金に応募したところ研究予算の確保に成功したことは喜ばしいことでした。

本年限りになりますが、奨学支援ありがとうございました！



長岡技術科学大学大学院
工学専攻・
物質生物工学分野修士 2 年

就職活動も紆余曲折ありながら無事に終えることができ、現在は学会発表や修士論文の執筆に向けて、日々研究に励んでおります。来年からは社会人として新たな一歩を踏み出しますが、学部 2 年生からの 5 年間、経済的な不安を抱えることなく授業や研究、課外活動に専念できたのは、ひとえに古河記念基金様の奨学金によるご支援のおかげです。改めまして、心より御礼申し上げます。

現在は研究の合間を利用し、これまで訪れたことのない飲食店やバー、ショップなどへ足を運んでいます。来年からは大学のある新潟県、そして実家のある千葉県

を離れ、鹿児島県で働く予定であるため、「いつか行ってみたい」と思いながらも、距離や敷居の高さを理由に訪れる機会がなかった場所を、今のうちにできるだけ訪れるようにしています。

実際に足を運んでみると、自分好みのラーメン店に出会えたり、格式が高く入りづらいと感じていたお店でも、店員の方が丁寧に説明してくださるなど温かく迎えていただいたり、多くの新しい発見がありました。「もっと早く訪れていればよかった」と感じることも多く、自分が知らず知らずのうちに慣れ親しんだ選択肢ばかりを選んでいくことにも気付かされました。

社会人になってからも、新しい場所や物事に対して先入観を持たず、自ら一歩踏み出して挑戦し、自身の視野を広げていきたいと考えています。残りの大学生活も、学業・研究はもちろん、私生活においても悔いのないよう一日一日を大切に過ごし、充実した学生生活の締めくくりとなるよう努めてまいります。



大阪大学
医学部医学科 4 年

この度は、奨学生として多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。近況として、研究活動、課外活動についてご報告いたします。

私は、自己免疫疾患の発症機構を解明し、新たな治療法の確立に貢献することを目標として研究に取り組んでいます。祖母が関節リウマチを患っていることをきっかけに免疫学に興味を持ち、臨床で生じる疑問を基礎研究によって解決し、再び患者さんへ還元できる医師・研究者を目指しています。

昨年度は 3 ヶ月間の基礎研究配属期間において、抗体を産生する細胞である形質細胞が骨髄へ移動する仕組みに関する研究を行いました。RNA-seq 解析やマウスを用いた実験を通して、新たな走化性因子候補となる受容体の解析に取り組み、その成果を学年での研究発表会で発表し、最優秀演題賞をいただくことができました。この経験を通して、実験技術だけでなく、研究計画を立案し、結果を論理的にまとめて発信する力の重要性を学びました。

現在は新たな研究室に所属し、自己免疫疾患の再燃

に関与すると考えられている組織常在性記憶 T 細胞 (TRM) に着目した研究を進めています。炎症は一度治まっても同じ部位で再燃を繰り返すことがありますが、その仕組みは十分には解明されていません。私は、TRM が関節内のどこに存在し、どのような細胞と相互作用しながら炎症を維持・再燃させるのかを明らかにしたいと考えています。

また、課外活動では、昨年度より音楽系サークルの部長を務め、多くの人が持続的に活動できる環境作りに取り組みました。

このように、研究、学業、課外活動のいずれにおいても多くの挑戦と学びがあり、自分自身が大きく成長できた一年であったと感じています。こうした貴重な経験を積むことができるのも、貴基金のご支援があってこそです。改めまして、心より御礼申し上げます。



東洋大学
理工学部建築学科学部 3 年

いつも温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

学年が一つ上がり、研究室への配属やオープンデスクへの参加を通して、これまで以上に将来の進路や建築について考える時間が増えました。設計事務所で働く方々のお話を伺い、実際の建築現場に触れる中で、自分が目指したい建築のあり方を改めて考える機会となっています。

現在は、全国から集まった建築学生が岐阜県加子母村で木材の加工から施工までを行う「木匠塾」の活動に力を入れています。今年度は、長年使われていなかった古民家を改修し、ゲストハウスとして再生するプロジェクトに取り組んでいます。

また、大学ではリノベーションを専門とする研究室に配属され、春学期の設計課題でも既存建築の改修をテーマに設計を行いました。建物の歴史や地域性を尊重しながら新たな価値を生み出す考え方を学び、その学びを木匠塾の現場で実践できることに大きなやりがいを感じています。図面通りには進まない現場も多く、実際に手を動かすことで得られる学びの大きさを日々実感しています。

今年度は活動の中心となる学年でもあり、施工の工程

管理や作業の段取りを考え、メンバーと協力しながら進める機会も増えました。技術だけでなく、周囲と協力しながら柔軟に判断する力も身につけてきたと感じています。

このように充実した学生生活を送ることができているのは、日頃よりご支援いただいているおかげです。いただいたご支援への感謝を忘れず、一つ一つの学びを大切にしながら、今後も学業・課外活動の両面で努力を重ね、社会に貢献できる建築人を目指してまいります。



大阪大学
基礎工学部
電子物理科学科学部 3 年

本年も古河記念基金の奨学生に採用して頂き、誠にありがとうございます。近況報告として、大学の授業、サークルの 2 点について述べさせていただきます。

学部 3 回生となり、授業の難易度がさらに上がりました。授業の内容は大まかに理解できても、いざ問題を解こうとすると手が進まないことが多々ありますが、時には先生や友人を頼りつつ、知識を自分のものにすべく努力を重ねております。最近は通信工学の講義が特に興味深いです。コンピュータでの信号処理や信号波の搬送方法を学び、身近な存在であるインターネット通信がどのように実現しているかを具体的に学んでいます。内容はハイレベルで付いていくことに精一杯ですが、しっかりと身に付けることが出来るよう精進してまいります。

サークル活動も 3 年目となりました。私は軽音サークルでキーボードを担当しております。所属するサークルは 3 回生の 12 月で引退する慣習のため、活動は残すところ約 5 か月となってしまいました。もう半年もせず引退と考えると非常に寂しいですが、大学に入ってから始めたキーボードも上達し、これまでの積み重ねに確かな手応えを感じています。現在は大学祭の屋外ステージで演奏する権利を得るオーディションに向け、日々練習に励んでおります。難しい部分もありますが、これまでの活動で身に付けたことを発揮すべく励みたいと思います。

このように学業、サークルを通じ、私は現在たいへん充実した毎日を過ごしております。今後とも奨学生として皆様のご期待に沿えるよう取り組んでまいります。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



大分大学大学院
理工学研究科修士 2 年

この度は、奨学生としてご採用いただき、誠にありがとうございます。ご支援のおかげで、学業や研究に安心して取り組むことができ、充実した学生生活を送っています。改めて心より感謝申し上げます。現在、大学院では情報工学に加え、認知科学や行動心理学、行動経済学などの知見を取り入れたシステム設計について学び、人の行動や心理に着目した、直感的で誰もが使いやすいシステムの実現を目指して研究に取り組んでいます。その中でも、Web ブラウザ上でのユーザ行動の分析やそれを活用したシステムの開発を進めています。

昨年度は、この研究成果を学会で発表する機会をいただきました。発表では、多くの研究者の方々から貴重なご意見やアドバイスをいただき、自分では気付かなかった課題や改善点を知ることができました。また、同じ分野で研究を進めている方々の発表や企業が取り組んでいる研究・技術開発について話を聞く機会もあり、自分の研究をより広い視点で見つめ直す貴重な経験となりました。特に、研究成果が実際の製品やサービスにどのように活かされているのかを知ること、自分の研究も社会に役立つものへと発展させたいという思いが一層強くなり、現在の研究への大きなモチベーションとなっています。

現在は、学会でいただいたアドバイスをもとに、より実用的で使いやすいシステムの実現を目指しています。また、研究活動だけでなく、より専門性を高めるために資格の勉強にも励んでおり、知識の幅を広げながら日々自己研鑽を続けています。

このように研究や勉強に集中できる環境をいただいているのは、貴財団からの温かいご支援があつてこそだと実感しています。いただいたご支援への感謝の気持ちを忘れず、今後も研究活動に真摯に取り組んでいきます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



東京科学大学
環境・社会理工学院
学部 2 年

2 年生の半分が終了し、
時間経過の速さに驚いてい

る今日この頃です。今回は、サークル活動と勉学について主に報告します。

私が所属するサークルはコーヒーサークルとダンスサークルの 2 つです。このうち、コーヒーサークルである「TECHSPRESSOFORSTUDENTS」は設立後 3 年目のサークルであり、設立した代のひとつが修士 2 年であるため、今年の 3 月に引退され、今年度から我々 2 年が執行代となりました。私は、幹部として渉外部門の部門長を勤めています。普段は SNS の更新や外部組織との連絡をしています。大きな仕事の一つとして新歓期の連絡です。参加申し込みをしてくれた新入生一人一人に参加日の通知やリマインドの連絡を行いました。新入生が加入するまで、渉外部門は私以外の現役代がいなかったため、かなり忙しかったのですが、なんとか乗り切ることができました。今年は去年よりも格段に規模が大きくなったため、新歓の見通しを立てることが難しく、幹部でのミーティングを繰り返し、一回に儲ける人数制限や入会にあたる選考の有無などを決定しながら運営していきました。その結果、今年は多くの新入生が入会し、約 50 人が所属する大きなサークルとなりました。規模の拡大に伴い、今年の学祭では新たなチャレンジを試み、幹部でメニューやオペレーションを繰り返し検討しています。夏休みに入ると、学祭に向けた準備は加速すると思います。が、他の幹部と共に手探りで進んでいきます。

私の所属する環境・社会理工学院融合理工学系は、本学の中でもかなり特殊な学部で、専門科目の中にも多様な分野が含まれています。さらに、必修の授業はすべて英語または日本語と言語を選択可能で、現在は必修三科目のうち一科目を英語で履修しています。そのおかげで英語に触れる時間は格段に伸び、聞き取れるようになってきたと感じます。

2 年生の後半も引き続き頑張っていこうと思います。



東京科学大学大学院
物質理工学院修士 2 年

この度は、貴財団の奨学生として去年度引き続き採用していただき、誠にありがとうございます。授業や研究活動で忙しい日々を送っていますが、貴財団のご支援によって通学費等の経済的な負担が減り、充実した学生生活を送ることができています。現在、私は燃料電池触媒への応用に向けた白金サブナノ粒子の合成とその触媒活性評価について取り組んでいます。一般に市販されているナノスケールの金属粒子よりもさらに微小化した金属サブナノ粒子は比表面積の高さから、高い触媒活性が期待されております。学部 4 年次から同じ研究テーマを継続しており、昨年度は学会やシンポジウムに 6 回、発表者として登壇し、実験技術だけでなく発表スキルも着々と身に着けています。昨年 12 月にハワイの国際学会へポスター発表のため参加しました。日本国内の学会発表では発表者のスーツ着用が一般的で、ポスター・口頭発表ともに発表者が研究背景や成果を述べた後、視聴者が質問を投げかけるというスタイルが多いです。一方、初めての国際学会では発表者・視聴者ともに私服（ハワイなのでアロハシャツもしばしば）、そしてポスターの発表中に視聴者が即座に質問や感想を言う、会話に比較的近いスタイルでした。事前に覚えた英語の原稿はほとんど使わず、ほぼアドリブで研究内容を話したため、英語でうまく説明できない場面もありました。ですが発表者と視聴者の心理的距離の近さを実感することができ、発表を通して伝えたいことをその場で一生懸命考えて視聴者に考察を述べるという、非常に有意義な経験をすることができました。国際学会の参加費や渡航費、宿泊費は研究室の予算だけでなく、貴財団のご支援によって賄うことができました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。



大同大学大学院
工学研究科電機・
電子工学専攻修士2年

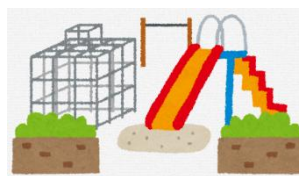
本年度も引き続き奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。

現在は学会発表と就職活動を終え、残す大きな行事は修士論文発表のみとなりました。就職活動中は、学会発表や研究の中間発表と時期が重なったこともあり、当初の予定より長引いてしまいましたが、大学の就職支援や教授の助けをいただき、無事に就職先を決めることができました。

また、東京で開催された学会では、発表に向けて準備を重ねてきましたが、当日はトラブルもあり、自分の力を十分に発揮できたとは言えない結果となりました。しかし、この経験を通して発表時の対応力や事前準備の重要性を改めて実感することができました。今回の反省を生かし、修士論文発表では納得のいく発表ができるよう努めたいと考えています。

あと一年も経たないうちに社会人となり、新たな生活が始まることに期待を抱く一方で、不安も感じています。残り約半年となった大学生活を大切に、研究や学生生活に悔いを残さないよう、一日一日を充実させて過ごしていきたいと思います。

以上、近況報告とさせていただきます。日頃よりご支援を賜り、学業や研究に専念できることを心より感謝しております。今後も感謝の気持ちを忘れず、一層努力してまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。



中央大学大学院
理工学研究科
都市人間環境学専攻修士1年

今年度も引き続き奨学生としてご支援いただき、誠にありがとうございます。今年度は大学院へ進学し、研究活動、授業、就職活動、アルバイトなど、中々に忙しい日々を送っております。

研究活動については、「携帯位置情報データを用いた公園の利用価値推定」というテーマで、昨年度の卒業研究から継続する形で現在も取り組んでいます。内容としては、公園のような非市場財の価値を測る方法としてトラベルコスト法というものがあり、これは訪問者が対象地へ行くのにかかったコストの大きさに対象地の価値を推定する方法です。従来はアンケート調査をもとに行われていましたが、本研究では、人々の行動をより詳細に把握できる携帯位置情報データを用いることで、より実態に則した価値推定を目指しています。

昨年度は大規模なデータの処理にゼロから取り組み苦労したのですが、最近は新たに同様のデータを使い始めた同期や後輩に対してアドバイスできるようになり、ある種の成長を実感しているところです。秋の学会で発表する予定があるので、今後はまずそれに向けた準備を進めていきたいと思っています。

就職活動についても少し触れると、夏インターン選考を通して、学業などとの両立の重要性を実感しているところです。現状、取り組み状況も選考結果も満足のいくものにはなっていませんが、最終的に納得できる形で終わられるよう頑張っていきたいです。

また、多くの企業について知ることができ、自分のことや将来について深く考える良い機会だと思うので、ポジティブな気持ちを持って取り組んでいきたいと思っています。

以上、簡単ではありますが近況報告とさせていただきます。今後とも何卒よろしくお願いいたします。



東北大学
工学部
電気情報物理工学科学部 4 年

今回は、私が取り組んでいる研究についてご紹介します。現在私は、太陽光など周囲の環境から得られるわずかな電力だけで動作する AI の研究に取り組んでいます。一般的な AI は多くの電力を必要としますが、私はコンセントからの給電や乾電池に頼らずに情報処理を行えるシステムの実現を目指しています。気になった方は、「ニューロモルフィックコンピューティング」「SNN」「エッジ AI」といったキーワードで、ぜひ検索してみてください。私は将来性のある技術分野だと考えています！これまでに、太陽電池から得られる電力で AI 回路を動作させ、音声を認識できることを確認しました。現在は、この成果を論文として発表するため、実験結果の整理と原稿の執筆を進めています。今夏は東北大学大学院の入学試験も控えており、研究と並行して準備を進めています。大学院では現在の研究をさらに発展させ、低消費電力 AI の実用化につながる成果を生み出したいと考えています。奨学金のご支援により、研究と学業に集中できる環境をいただいていることに、心より感謝申し上げます。



東京理科大学大学院
薬学研究科修士1年

今年度より本基金の奨学生としてご支援をいただいております、日頃の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

私は現在、大学院に所属しながら国立精神・神経医療研究センター(NCNP)にて、学部 4 年次より脊髄損傷に関する研究に取り組んでおります。普段は研究所を拠点とし、講義の際に大学へ通う生活を送っています。この春から修士課程に進学し、講義が増えたことで大学へ行く頻度も多くなりました。研究所と大学は少し距離がありますが、移動の時間を良い気分転換とし、気持ちを切り替えながら日々の研究と学業に励んでおります。

NCNP では頻繁にシンポジウムやセミナーが開催され、

国内外の研究者の方々のご講演を伺う貴重な機会に恵まれています。先日は、自身の研究で活用しているツールの開発者である論文著者の先生に直接お会いすることができ、非常に大きな励みとなりました。

また、学会や研究所内の若手の会にも積極的に参加し、同年代の研究者と交流を深めております。先日の貴基金の交付会も非常に有意義な機会となりました。さまざまな所属・分野で熱心に研究へ取り組まれている皆様のお話を伺い、自分自身の研究に対する姿勢を改めて見つめ直すとともに、より一層努力していこうと気持ちを新たにいたしました。

最近では、特に計画の立て方や時間の使い方について深く考えています。実験に集中するあまり執筆や提出物の作業が後回しになってしまったり、逆に締め切りの近いデスクワークに追われて実験の進捗が滞ってしまったりと、両立の難しさを実感する日々です。研究員の方々や先輩方に助言をいただきながら、スケジュール管理や軌道修正の仕方について試行錯誤を重ねています。

修士課程 1 年目は、今後の進路を考える上でも非常に重要な時期であると考えています。学業と研究の双方に真摯に取り組み、一つひとつの経験を自身の成長につなげながら、充実した大学院生活を送りたいと思います。ご支援いただいていることへの感謝を忘れず、今後とも一層精進してまいります。



東京科学大学大学院
医歯学総合研究科博士 1 年

このたびは、貴財団より奨学金のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。皆様からの温かいご支援のおかげで、生活面での不安を軽減し、日々の研究活動に励むことができております。

現在は、がん細胞内で選択的に化学反応を起こすことで効果を発揮する薬剤分子の創出を目標に、研究に取り組んでいます。前期は主に有機合成による化合物の合成に取り組んでいます。現段階では、設計した化合物が想定どおりの効果を発揮するかを細胞レベルで評価する段階には至っていません。有機合成は現在の研究室に所属してから本格的に始めた実験ですが、日々

実験を重ねる中で化合物の精製や分析にも慣れ、現在では自ら合成計画を立て、化合物の設計を行うことで、さまざまな化合物の合成に取り組めるようになりました。後期は、これまでに身につけた技術を生かしてさらに多くの化合物を合成するとともに、実際にがん細胞を用いた評価を進め、研究成果につなげていきたいと考えています。

また、私生活では、この4月の進学を機に一人暮らしを始めました。当初は研究と家事を両立できるか不安もありましたが、半年ほどが経ち、一人での生活にも徐々に慣れてきました。家事の中では特に自炊が好きで、最近では研究生活にも余裕が生まれてきたため、料理を趣味の一つとして楽しみたいと考えています。

改めまして、貴財団からのご支援により生活基盤を整え、研究に専念できる環境を得られていることに深く感謝申し上げます。今後もご支援への感謝を忘れず、より一層研究に励んでまいります。



滋賀医科大学
医学部医学科5年

今年度も引き続き奨学生にご採用いただき、誠にありがとうございます。今年に入り、いよいよ臨床実習が始まりました。忙しい実習の中ですが、おかげさまで生活とのバランスを取りつつ充実した毎日を過ごすことができております。ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

臨床実習では、大学病院で働く医師の指導の下、担当する入院患者さんの身体診察や問診をさせていただき、得られた所見やそこから考えられる病態についてカルテに記録する、という鍛錬を日々行わせて頂いています。同時に、よく目にする疾患や検査法、臨床推論などについて、先生方の講義を受ける時間もあります。座学で知識をインプットする過程もちろん楽しいですが、患者さんと直接関わらせて頂き、必要な診察や問診を効率良く且つ患者さん一人ひとりの身体・精神状況に配慮して行って治療の最適解を探っていく過程に、難しさと同時に貴重な機会をいただいていることの喜びを感じています。各診療科で数週間おきに実習をさせていただくのですが、それぞれの診療科の医師が働く姿を間近で見ながら、「自分が〇〇科に行くとしたら、医師としてこんな

風に患者さんに関わることができるのだな」「〇〇科の先生たちの雰囲気はこんな感じだな」など、各診療科の文化の違いに触れて、働いてからのイメージを膨らませています。その中で、少しずつ自分の大切にしたい価値観が見えてきつつあるように感じています。今年の目標は、2年後初期研修医として働く際にすぐに動けるための知識と技術を身につけることです。

これからも古河記念基金の奨学生としての自覚を持ち、健康に気をつけて日々精進いたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。



公立諏訪東京理科大学
工学部機械電気工学科
学部3年

私は現在、ゼミ研や研究室には所属しておらず、専門分野については授業や実験を通して基礎的な知識や技術を身につけています。今後は自身の興味や将来の進路をより明確にするため、インターンシップへの参加を検討しています。実際の企業での業務や技術開発の現場を経験することで、大学で学んでいる工学の知識が社会でどのように活用されているのかを理解し、将来のキャリア形成につなげたいと考えています。

一方で、現在は経済的な負担が大きくなっており、生活費や学業に必要な費用を補うため、アルバイトの時間を増やしました。大学での学習や課題、実験レポートなどに必要な時間を確保しながら働くことは容易ではありませんが、時間の使い方を工夫し、学業との両立を意識して取り組んでいます。アルバイトによって学習時間が減少しないよう、予定を事前に立て、空いた時間を利用して授業内容の復習や専門科目の勉強を行っています。

また、インターンシップへの参加に向けて、企業研究や自己分析を進めるとともに、将来必要となる技術者としての知識を身につけるため、自主的な学習にも取り組んでいます。特に、電気電子工学分野の専門知識を深めることを意識し、授業で扱った内容を復習するだけでなく、関連する技術や社会で求められている分野についても調べています。

アルバイトを増やしたことで時間的な余裕は以前より少なくなりましたが、経済的な問題を解決しながら、大学での学びや将来に向けた準備を継続するために必要な

努力であると考えています。今後も限られた時間を有効に活用し、学業、アルバイト、インターンシップへの準備を両立させながら、自分自身の成長につなげていきたいです。



大阪大学
工学部応用自然科学科
学部4年

みなさまいかがお過ごしでしょうか。

私は4月から研究室に配属され、新しい環境での生活が始まりました。

授業中心だった生活から研究センターの毎日へと変わり、実験や文献調査など初めて経験することも多く、大変ながらも充実した日々を過ごしています。思うように進まないこともあります。先生や先輩方に助言をいただきながら試行錯誤を重ね、少しずつ研究の面白さや奥深さを感じられるようになってきました。

研究以外では、スポーツを通して充実した時間を過ごしています。留学生と一緒にワールドカップの試合を観戦する機会があり、スポーツを通して自然と会話が弾み、互いの文化や考え方に触れることができました。また、最近ではバレーボールの試合を観戦することにも夢中になっています。最後まで諦めずにプレーする選手たちや、仲間と協力しながら戦う姿を見ていると、大きな刺激を受け、自分も目標に向かって努力を続けようという刺激を受けています。

現在は大学院入試を控えており、勉強に力を入れています。研究との両立は簡単ではありませんが、限られた時間を有効に使いながら準備を進めています。不安や緊張もありますが、これまで積み重ねてきた努力を信じ、自分らしく試験に臨みたいと思っています。入試まで残りわずかですが、最後まで諦めず、一日一日を大切に過ごしていきたいです。



早稲田大学
先進理工学部化学生命化学科
学部4年

いつも温かいご支援に心より御礼申し上げます。

私は大学4年生から分子生物学を専門とする研究室に所属し、生命現象を分子レベルで理解し、医療への応用につながる研究に取り組んでいます。現在は実験と文献調査を繰り返しながら、自分の研究テーマについて理解を深め、最適な実験方法や研究の進め方を検討しています。

研究では、一つの実験に多くの時間がかかるうえ、期待していた結果が得られないことも少なくありません。そのような時には、実験条件や手順を見直し、指導教員や研究室の先輩方と相談しながら原因を一つずつ確認しています。試行錯誤を重ねる中で、物事を論理的に考える力や、粘り強く課題に向き合う姿勢が身に付いてきたと感じています。

また、大学院への進学を見据え、学部4年生から大学院の授業も履修しています。専門性の高い内容に苦戦することもありますが、最新の研究やさまざまな研究手法に触れることで、自分の研究を多角的に考える力が養われていると感じています。

研究や授業が忙しくなり、アルバイトに充てられる時間は以前より少なくなりましたが、奨学金のおかげで学業と研究を優先しながら充実した学生生活を送ることができています。今後も一つひとつの経験を大切に、知識と技術を着実に身に付けられるよう努力を続けていきたいと考えています。今後ともどうぞご指導ご支援賜ります様よろしくお願い申し上げます。

卒業生から後輩、古河グループへのメッセージ

2025 年度をもって奨学生を終えた方々から、後輩の奨学生や、古河記念基金を支援していただいている古河グループの方々へのメッセージです。

（東京大学大学院）

学部 4 年生から博士課程までの長期に渡り、多大なご支援を賜り、心より御礼申し上げます。皆様の温かいご支援のおかげで、経済的な不安が軽減され、研究活動に専念することができました。これまで、マウスを用いて「嗅覚を介した社会行動の神経メカニズムの解明」に取り組んでまいりました。難しい課題で当初の想定よりも研究期間を延長しましたが、粘り強く取り組んだ成果が現れてようやく原著論文としてまとめるデータが得られました。現在は、今年の 9 月に学位取得することを目指し、学位論文と原著論文に取り組んでいるところです。

その後の進路としては、データ解析および AI 技術を活用した社会課題解決に取り組む企業への就職を予定しております。これまでの研究を通じて培った、複雑な現象から本質的な課題を抽出してデータに基づいて検証する力を活かして、社会における価値を生み出せる人材になることを目指しております。改めましてご支援に深く感謝申し上げます。

（東京大学大学院）

私は東大で博士課程に進む学生の多くが修士の段階から何らかの資金支援を得る中、修士課程ではそれが叶わず、研究を続ける上で不安の大きい時期がありました。そのような状況でいただいた本奨学金は、生活費として十分ではない一方で、価値を認めてもらえている、という確かな支えとなり、心の面で大きく背中を押してくれました。

その後も研究に集中できた結果、博士課程では同期の中でも多くの論文を発表し、さらに 1000 万規模の研究費獲得にもつながりました。自分がやり切りたい研究に全力で取り組めたのは、本奨学金のご支援があったからこそです。心より感謝申し上げます。

今後は民間企業に進みますが、将来は、研究に挑む後輩たちを少しでも支えられる形で還元していきたいと考えています。改めて、温かいご支援をありがとうございました。

（横浜国立大学）

古河記念基金および古河グループの皆様、このたびは 3 年間にわたり多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。皆様の温かいご支援のおかげで学業に専念することができ、国際学術誌への論文投稿や学会での受賞など、研究活動において業績を上げることができました。また、工場見学会をはじめとする貴重な学びの機会もご提供いただき、心より感謝申し上げます。今後も本奨学金を通して、将来を担う学生へのご支援が継続されますことを願っております。私は卒業後、重工メーカーにて研究開発職に従事いたしますが、皆様からいただいたご厚情を胸に、社会の安定と発展に貢献できるよう努めてまいります。

奨学生の皆様、対面での交流や交流誌を通して皆様の努力や挑戦に触れ、大変良い刺激をいただきました。今後のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。また卒業後、社会のために共に働く機会がありましたら、大変嬉しく思います。

(東京大学)

古河記念基金の皆様、この度は 2 年間にわたり温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。貴財団のお力添えのおかげで、アルバイトを減らし修士論文の研究に専念することができ、無事に良い評価をいただくことができました。このような貴重な機会を与えていただきましたこと、改めて深く感謝申し上げます。

卒業後は、大学および研究室で培った知識と経験を糧に、より一層成長できるよう精進してまいります。今後は社会の一員としての責任を自覚し、皆様からのご厚意に報いることができるよう努めてまいります。

末筆ながら、貴財団のますますのご発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

(横浜国立大学大学院)

このたびは、古河記念基金ならびに古河グループの皆様より多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。皆様の温かいご厚意により、経済的な不安を軽減しながら研究活動に専念することができ、大変恵まれた環境のもとで学びを深めることができました。

私は、認知症の早期発見を目指す AI 技術の研究に取り組んでまいりました。本奨学金のご支援があったからこそ、実験環境の整備や学会発表、論文投稿などにも積極的に挑戦することができました。

この春より社会人として新たな一步を踏み出しますが、これまでに培った学びと経験を活かし、社会に価値を還元できるよう努めてまいります。

後輩の奨学生の皆様にも、この貴重な機会を大切に、それぞれの目標に向かって充実した学生生活を送っていただきたいと願っております。改めまして、古河記念基金および古河グループの皆様のご支援に深く感謝申し上げます。

(早稲田大学)

後輩の奨学生の皆様、そして古河記念基金をご支援くださっている古河グループの皆様に、心より感謝申し上げます。この奨学金のおかげで、経済的な不安を軽減し、学業に集中できる環境を得ることができました。それだけでなく、自分の目標に向かって挑戦し続ける大きな励みとなっています。

後輩の奨学生の皆様には、この貴重な機会を大切に、それぞれの目標に向かって積極的に努力を重ねてほしいと思います。私自身も、将来は社会に貢献し、このご支援への感謝を形にしていけるよう、引き続き精進してまいります。

改めまして、古河グループの皆様のご支援に、心より御礼申し上げます。

(東京大学)

私は高専 3 年生のとき、東大の JAXON という人型ロボットを偶然知り、世界の最先端でロボットの研究がしたいという夢を抱き、東大を、JAXON を開発した JSK という研究室を目指しました。そして学費の当てもなく東大に飛び込み、運よく皆様の奨学生となってから 6 年が経ちました。現在は JSK で人型ロボットの機械・強化学習 (AI) 制御の研究を出来ています。「好きこそ物の上手なれ」と言いますが、古河記念基金の皆様が支えてくださったおかげで、何とか私は私の「好き」を貫き通してここまで歩み続けることができました。改めまして、今まで長きにわたってご支援を賜り、本当にありがとうございました！現在、人型ロボット分野では中国やアメリカが世界をリードしておりますが、日本が再びこの分野で追いつき、追い越していけるように今後も一層努力してまいります。そして、これまでにいただいたご支援への感謝を胸に、研究者として社会に貢献できるよう精進してまいります。

(帝京平成大学)

古河記念基金の奨学金によって、学生生活を支えていただいたことに心より感謝申し上げます。経済的な支えをいただけたことで、生活の不安を抱えすぎることなく、学業や実習、そして薬剤師国家試験に向けた勉強に集中することができました。

ご支援を賜りましたおかげで、長年の目標であった薬剤師となるための道を着実に歩み、このたび国家試験に合格するとともに、希望していた病院への就職も決定いたしました。これまで積み重ねてきた学びを大切にしながら、医療の現場で患者さんや社会に貢献できる薬剤師になりたいと強く思っています。

これから奨学金を受ける後輩もし挑戦したいことがあるのなら、最初から諦めてしまうのではなく、ぜひ一歩踏み出してみてください。奨学金という支えだけでなく、挑戦の中で得られる経験や学びもまた、自分を支え前に進ませてくれる大切な資源になると私は感じています。最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださった古河記念基金ならびに古河グループの皆様に、改めて深く感謝申し上げます。皆様からいただいた支援を胸に、今後は社会に貢献できる医療人として成長していきたいと思います。

(金沢大学大学院)

この度は、奨学金による多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。

おかげさまで、アルバイトに追われることなく、安心して大学および大学院での学業に専念することができました。

我が家は兄弟が 4 人と多く、年齢も近いため、経済的に決して余裕のある状況ではありませんでしたが、皆様のご支援により、日々の生活や学業に必要な環境を整えることができました。

4 月からは石川県庁に入庁いたします。これまでいただいたご恩を胸に、石川県の発展と地域社会への貢献に努めてまいります。

改めまして、これまでの温かいご支援に心より御礼申し上げます。

(北見工業大学)

この度は、奨学金をご支援いただき誠にありがとうございました。大学院 1 年生から 2 年生までの 2 年間にわたり温かいご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

大学院生活においては、金銭面の不安が解消され研究や勉学に専念することができました。また、研究室の仲間と充実した時間を過ごし、多くの思い出を作ることができました。これらの貴重な経験は、ひとえに古河グループの皆さまのご支援のおかげであり、深く感謝申し上げます。

後輩の奨学生の皆さまにも、本奨学金を有意義に活用し、実りある学生生活を送られることを願っております。

最後になりますが、古河グループの皆さまに改めて厚く御礼申し上げます。このご恩を胸に、今後は社会に貢献することで恩返しをしてまいりたいと存じます。誠にありがとうございました。

(早稲田大学大学院)

生成 AI などの技術の進化や、資源をめぐる各国の対立など、世界の情勢は目まぐるしく変化しています。そのような中で、日本や世界の発展に寄与できる人物は、分野にとらわれず、自分で課題を発見し、その課題に対して従来の解決法を調査した上で、より良い、もしくは全く新しい解決法を編み出す力を持った人材だと思います。

古河記念基金が掲げる理念に一致する人材はまさにそのような人物であるため、皆さんにはぜひそういった力を身に付けていただきたいと思います。私自身もまだまだ未熟ですが、ともにそういった能力を備えた人物を目指して精進してまいります。

(藤田医科大学)

このたび、卒業のため奨学金の受領を終了することとなりました。

1 年間、古河記念基金様からのご支援を賜り、心より感謝申し上げます。古河記念基金様のご支援のおかげで、学業に専念することができました。

大学時代に培った経験と感謝の気持ちを忘れず、今後は医療人として努力してまいります。

誠にありがとうございました。

後輩の奨学生の皆様へ

この奨学金のおかげで、私は充実した大学生活を送ることができ、学業に専念することができました。

大学生活はあっというまでするので、楽しんでほしいです。また、支えてくださる家族や古河記念基金様への感謝の気持ちを大切にしてください。皆さんのこれからのご活躍を心より応援しています。

(山形大学大学院)

この度は、奨学生として採用いただき、誠にありがとうございました。本奨学金のおかげで、研究活動および学業に専念することができました。その成果として、学会発表 8 件(うち学会賞 1 件)、筆頭英語論文 1 報、共同英語著書 2 件と、研究成果を形にすることができました。これらの業績により、山形大学から「山形大学交友会長賞」「秦逸三記念賞」「山形大学優秀学生表彰」を賜りました。

これらの成果は、本奨学金により研究に専念できたことの賜物であり、深く感謝しております。

今後は新社会人として新たな道に進みます。その中で、いただいたご恩とご縁を大切にし、より一層精進してまいります。末筆ながら、改めまして心より御礼申し上げます。

(九州大学大学院)

このたびは、温かいご支援を賜り、誠にありがとうございました。古河記念基金ならびに古河グループの皆様のご厚意により、経済的

な不安を抱えることなく研究活動および学生生活に専念することができました。私は、CO₂の有効利用に関する研究に取り組んでまいりました。実験や学会発表、論文執筆に全力で挑戦できたのは、ひとえに本奨学金のご支援があったからこそです。これから社会人になりますが在学中にいただいたご支援への感謝を忘れず、社会に

価値を還元できる技術者となれるよう努力を重ねてまいります。後輩の奨学生の皆様におかれましては、目標に向かって存分に挑戦

していただきたいと願っております。改めまして、これまでのご支援に深く御礼申し上げますとともに、古河グループの皆様の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

(東京大学)

大学在学中より長きにわたりご支援いただき、誠にありがとうございました。古河記念基金ならびに古河グループの皆様の温かいご支援は、学びを続けるうえで大きな支えとなりました。奨学金による支援が終了しても、支えていただいたことへの感謝を忘れず、今度は自分が誰かの挑戦を応援できるよう、努力を重ねていきたいと思います。後輩の奨学生の皆さんも、それぞれの目標に向かって、学生生活での学びや出会いを大切にしてください。これまで本当にありがとうございました。

事務局から

2026 年度奨学金支給決定書交付会が開催されました

6 月 22 日 (月) 12 時から、東京大手町の古河三水会会議室において開催され、昼食を含め約 1 時間半行われました。

5 月の選考委員会で確定した奨学生 60 名 (新規 20 名、継続 40 名) のうち、23 名 (うち外国人留学生 2 名) が授業等の合間を縫って出席、古河記念基金からは吉田政雄代表理事 (古河電気工業(株)名誉顧問)、野地彦旬様 (横浜ゴム(株)名誉顧問)、吉永辰彦業務執行理事の 3 名が出席されました。

吉田代表理事からの当基金設立の趣旨や経緯の紹介と激励のお言葉で始まり、奨学生の自己紹介の後、昼食・懇談と続きました。昼食後、吉田代表理事より出席者全員に一人ずつ、奨学金支給決定書が手渡されました。続いて、奨学生が、研究テーマや学生生活などについての 2 分間スピーチ、最後に、野地様、吉永業務執行理事からご挨拶があり、奨学生に対する祝福と期待の言葉が送られ終了しました。全体を通し、奨学生同士の会話も弾み、和やかな会となりました。



2026 年度の寄付金について

2025 年度は、古河三水会、グループ会社の他、グループ会社の関係者(個人)の方々から、合計で 161 万円の寄付金を頂きました。

皆様のあたたかいご支援、本当にありがとうございます。

2026 年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2025年度寄付者一覧(受領日順)

受領日	氏名	受領日	氏名
2025年4月14日	橋 本 卓 様	2025年7月29日	志 賀 洋 二 様
2025年5月～2026年3月	守 田 寛 様	2025年7月29日	小 林 義 昭 様
2025年5月1日	吉 永 辰 彦 様	2025年7月29日	藤 澤 茂 樹 様
2025年5月7日	射 場 孝 様	2025年7月29日	芳 仲 篤 也 様
2025年5月13日	石 原 廣 司 様	2025年7月29日	川 本 尚 史 様
2025年5月13日	柴 田 光 義 様	2025年8月19日	青 木 慎 治 様
2025年5月13日	小 林 敬 一 様	2025年8月29日	宮 川 尚 久 様
2025年5月13日	森 平 英 也 様	2025年8月29日	中 戸 川 稔 様
2025年5月13日	柳 登 志 夫 様	2025年8月29日	荻 野 正 浩 様
2025年6月20日	梅 井 弘 好 様	2025年8月29日	名 塚 龍 己 様
2025年6月20日	金 平 桂 子 様	2025年8月29日	今 野 光 一 郎 様
2025年6月23日	下 鳥 正 弘 様	2025年8月29日	岩 間 和 義 様
2025年6月24日	藤 岡 さ お り 様	2025年8月29日	酒 井 宏 之 様
2025年6月24日	椎 名 翔 吾 様	2025年8月29日	三 影 晃 様
2025年6月25日	鶴 岡 尚 様	2025年8月29日	北 川 隆 行 様
2025年6月25日	池 田 健 一 様	2025年8月29日	山 口 正 己 様
2025年6月25日	鹿 島 田 耕 一 様	2025年8月29日	宮 本 知 寿 様
2025年6月26日	水 野 健 様	2025年8月29日	栗 田 憲 一 様
2025年6月26日	岡 村 憲 男 様	2025年8月29日	玉 利 健 一 郎 様
2025年6月26日	渡 部 耕 治 様	2025年8月29日	今 井 伸 様
2025年6月26日	小 野 貴 裕 様	2025年8月29日	田 近 強 様
2025年6月27日	中 村 俊 夫 様	2025年8月29日	山 川 賢 司 様
2025年6月28日	木 村 博 紀 様	2025年9月8日	石 島 健 一 郎 様
2025年6月30日	宮 本 知 昭 様	2025年9月17日	浅 田 圭 司 様
2025年6月30日	結 城 正 博 様	2025年9月19日	増 田 薫 様
2025年6月30日	松 尾 剛 太 様	2025年9月26日	永 田 博 之 様
2025年6月30日	古 河 直 純 様	2025年10月20日	沢 邦 彦 様
2025年7月1日	齋 藤 直 樹 様	2025年10月29日	加 藤 勝 彦 様
2025年7月2日	吉 田 政 雄 様	2025年10月29日	中 村 浩 之 様
2025年7月3日	小 川 信 一 郎 様	2025年10月29日	黒 澤 立 也 様
2025年7月7日	菅 原 沙 季 様	2025年10月29日	梅 基 彰 史 様
2025年9月8日	平 野 正 人 様	2025年10月29日	櫻 木 崇 之 様
2025年7月29日	城 詰 秀 尊 様	2025年12月15日	高 桑 真 樹 様
2025年7月29日	富 安 治 彦 様	2025年12月5日	古河グループ技術情報連絡会 様

その他、匿名でご寄付いただいた方7名

古河記念基金へのご支援のお願い

古河記念基金は、設立以来、延べ 3,600 人の経済的に困難な学生に奨学金を支給し、学業・研究の場を与えられるよう支援して参りました。

当基金は、税額控除制度が適用される法人として認定されておりますが、認定継続には、一定の寄付者数を確保・継続していく必要があります。

従来から古河グループの皆様には温かいご支援をいただいておりますが、これまで以上に、皆様の強く温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

◎寄付の申し込み方法

「寄付申込書」を以下のサイトからダウンロードいただき、事務局宛にお申し込みください。

「一般法人・公益法人等情報公開 共同サイト」

<http://www.disclo-koeki.org/08a/00991/index.html>



「寄付申込書」および「ご入金の確認」ができ次第、寄付金受領証明書(税務申告書類)等をご送付いたします。

公益財団法人 古河記念基金
東京都千代田区大手町 2-6-4
常盤橋タワー(古河三水会内)

電 話:03-6262-0804

FAX:03-6262-0806

メール:kinenkikin@furukawa-sansuikai.gr.jp